令和2年度 愛荘町立歴史文化博物館 秋季特別展



## ごあいさつ

付け、こよりで綴っただけの帳面が使われていました。 洋式帳簿として販売し始めた明治の初め頃と言われています。しかしながら、明治末期 になっても一般の会社や商店では「大福帳」などのように、束ねた和紙に厚めの表紙を 我が国において今日的な既成紙製品が登場したのは、外国から洋紙や既製品を輸入し、

帳簿の既製品化を開始しました。 前夜、明治三十八年(一九〇五)にコクヨ株式会社の創業者である黒田善太郎(一八七九 一九六六)は、コクヨの前身「黒田表紙店」を起業し、大正二年(一九一三)に洋式 大正時代になり、経営の近代化が急速に進むと同時に洋式帳簿が普及しますが、その

えて優良な品質を求める多くの人々に受け入れられます。そして「国誉(コクヨ)」 天性工夫を好む黒田の企業家精神により改良が重ねられた様々な紙製品

標名どおり、黒田の郷里である越 品価され、今

至る文房具やオフィス家具、事務 が築き上げられました。 展覧会では、コクヨ創業期 て黒田 堂時代 ら昭和 ョブランド」

工業滋賀の紙製品(モノづくり) おける紙製品製造業史の一端に触 の紙製品製造業確立期―大コクヨ ととと 地域 資料 児に貢: 前を中 6株式会社コクヨ

年 0

化博物館

### 目 次

第 1 部

国誉の礎

[解説1] 既成紙製品製造販売業の確立:

-黒田国光堂(コクヨ)の五十年―

愛荘町立歴史文化博物館

〔解説2〕 コクヨ創業者・黒田善太郎の人物像

学芸員

三井

義勝

15

愛荘町立歴史文化博物館

学芸員 西連寺 20 匠

愛荘町立歴史文化博物館

〔解説3〕コクヨキャンパスノート ―コクヨ紙製品の進化.

学芸員 山本 剛史

## **〔列品資料解説〕**

凡

例

第2部

紙製品工場の今 ―コクヨ工業滋賀のモノづくり

47

- 本図録は令和二年十月 町立歴史文化博物館に の礎とコクヨの現在 展示解光 九日 て開催する 木 ある。 及秋で Ë 日 加展「紙製品への思い ―国誉 (日) までを会期として愛荘
- 展覧会の企画・構成は その他の が作成した。 製品工場の今 ―コク 補佐した。また、本図に [列品資料解説]並び のモノづくり―」に 大義勝が行い、 コラムの執筆は三井が行い、 ては株式会社コクヨ工業滋賀 会員<br />
  西連寺<br />
  匠・山本剛史が た、「第2部 紙
- 列品資料の写真は辻村 株式会社及び天商同窓 氏 から提供を受 務所) が Ļ その他についてはコクヨ
- 列品番号は展示順序と しも一致しない
- ・展覧会開催にあたり 協力を得た。記して謝 コクヨ株式会社 西林聡・尾方隆子・櫻本博巳・ 表します(敬称略・順序 資料を転出陳いただ 自者のほか、次の各位<br />
  ・機関の 順子

天商同窓会 根津勝

株式会社コクヨ工業滋賀

澤田好子・岡田佳美・福田裕子・田中沙季

鏑木清方記念美術館 今西彩子



### 第 1 部 国誉の礎

## |解説1||既成紙製品製造販売業の確 立

黒田国光堂(コクヨ)の五十年

愛荘町立歴史文化博物館 学芸員

三井 義勝

## 創業者 黒田善太郎

帳簿の表紙製造を行う黒田 三十八年(一九〇五)、黒田唐太郎(一八七九 我が国を代表する総合文具メーカーであるコクヨ株式会社の創 写真1) 創業者の里 が

市 現 富山県

造 治 造 明治 営む 世界した後 し、マッチ製 公した。そ 及市東

写真1 黒田善 現 戸で和式帳 市中央 .4J

表紙製造に従事した。

写真2 黒田表紙店の店員

事に対し、黒田は刷毛幅の改良 の肌で擦るという単純な作業と 枚貼り重ねた厚紙の表面を茶碗 公から四年後、 や糊の塗り方を改善することで 言われていた。この単純な手仕 当時の表紙製造は、 業の効率を図るなどして、 大阪市西区南堀 和紙を

> 当時、 う下請けから既成紙製品の製造元へ脱却を図り始める。 つ明治四十一年、黒田は表紙と和式帳簿の一貫製造に着手し、表紙製造と 効率化を徹底したところで利益自体は少なかった。そして独立して三年が経 江地先に「黒田表紙店」を開業し、 表紙の価格は和式帳簿全体の価格の五パーセント程度であり、 待望の独立を果たした。しかしながら、 作業の

## 2 和式帳簿の製造

なかでも前者につい クヨ事務用紙製品の 買う身になって作る 明治四十一年(一九〇八)、黒田表紙店は印刷業者や製本業者とともにコ 次のふたつの 色 となる和式帳簿の製 | 品廉価||という強 るをもって製造に取り組み、 伝えられている。 始した。当時、 黒  $\mathbb{H}$ 

ける人が最も書きやる を考慮した中紙九六枚 かった。そこで黒田 であるペン たのは、 ことに対し、黒田が実 日本製紙株式会社 に厚みをもたせるため 当時の和式帳簿は墨 明治時代の終わり 消費者のことを第一に考えた末のことで C<sub>P</sub> 刀の重 いは九八枚の和 聚品の製造 00枚(正100数 筆記具 りのない和紙を使 滑らかにする とを前提 がめた紙 争はイ を百枚物として販売していた 漉きで依頼し、帳簿をつ った。 また、当時他店が歩減り ていた。そのため、 ていたことに加え、帳簿 くとペンに代わり始めた。 式帳簿の製造にこだわっ 土佐紙株式会社 かり、書き難 硬筆 (現

写真3

このように、買う身になって作られた黒田表紙店の和式帳簿であるが、

後

黒田表紙店の決算帳

実権を握っていた文 がゆえ、当時販売の 発メーカーであった もらえなかった。そ 簡単に店先に並べて 具卸問屋を通しても



西区新 新町

戸舗から大 に

**三**月 |丁目)|地

(現

 $\underbrace{\overset{4}{\circ}}$ を移 う時 迎えることと く始まる大正 和式帳

簿は大正時代の中頃に「黒田 は時代の趨勢とともに次第に 一十三年(一九四八)に製造え打せり 堂の 帳簿 の後

## 3 洋式帳簿の登場

え始め、東京銀座の伊東屋や横浜の文寿堂(写真5)がそれに応えた。 る名入りの誂え物であった。その後、明治末期から既成洋式帳簿の需要が増 次導入され、洋式帳簿が用いられる機会は増加したが、それらは帳簿屋によ 言われる。⑵その後、 による簿記法の必要が迫られたことにより、 我が国では、明治五年(一八七二)の国立銀行条例の制定に伴い収支計算 西洋式の会計(複式簿記) 初めて洋式帳簿が用いられたと が銀行や大企業などにも順

特に明治三十七年(一九〇四)創業の伊東屋は、 当初約三〇種の洋式帳

自ら新しい販売ルー

簿を製造し、

その後七〇種類にも

伊東屋と文寿堂は、

明治四十四年

(一九一一) 三月に開催された第一

及ぶ既成洋式帳簿を製造販売した。

車道通りにあった文寿堂(右手前の店舗)

を出品し、伊東屋には進歩金牌が、 回日本文具教育品博覧会に洋式帳簿

経営も安定し、従業員も順

る。 (3) 文寿堂には進歩銀牌が贈られてい

を活か してい た。 を輔入 又具店 人に創業した文祥堂は、 輸入し、主力の印刷技術 ンド品」である既成洋式 式帳簿のほとんどは下請 する文具店であり、 ながら、これらの製造業 洋式帳簿を製造販売し 大正元年 (一九一二)、 どの舶来文具 販売 英国

## 黒田国光堂の洋台

帳簿の販路は、比較的 業者が製造していた。

られたもので

4

るための複式簿記が民間企業にも普及するようになった。⑷ 位置付けられる。そのようななかで、従来の単式簿記に代わり損益を計算す 急速に工業化が進められ、 我が国の資本主義経済体制が確立した大正時代は、 工業所得が農業所得を上回る時代の幕開けとして 各種製造業においても

式帳簿の製造を進めていたところ、第一次世界大戦が勃発、その後、 複式簿記の導入が会計帳簿に与える影響を予察した黒田表紙店は、 「国の光」(故郷の光)に由来する「黒田国光堂」に改称し、本格的に洋 (一九一三)、洋式帳簿(写真6)の既製品化に着手した。翌年には商号 大正二 東京株



準の算定は困難

と極めて

6

これを受

七一七)、

が帳簿組

であったため、

課税基

(写真は昭和初期の製品)

あったが、

記帳方法が乱

社

や商

店に普及しつつ

会計帳簿管理は一

般 によ

0)

時、

複式簿記

る

区九条一丁目他) 地先に洋4 良品を供給するため、 が下請業者に依存しなければ 急速に拡大した。 記帳方法に関する指導や講習 しかしなが 同年、 田国光 ない 帳簿 れま の専 積極 造は や印刷 ため、 専属 ら増土 区九 こそのほとんど る需要に対して に洋式帳 大阪市西 社

会善を

立し、 う悲願とともに黒田国光堂紙製品の商標は てこの年、 良品廉価な製品を作るという黒田の強い信念が込められていた。 黒田の 「故郷である富山の国の誉れとなる製品を作りたい」 「国誉」と定められた。

工場内に集めるなど、将来的 九条専属工場建設の際には

具製造体制

-請業

# 自家一貫製造のはじまり 猪飼野工場の設立

5

とから、 表紙部を新設し、 紙製造が次第に副業的になってきたことや一般紙製品の製造量が増加したこ 大正九年(一九二〇)、黒田国光堂は創業期の本業であった和式帳簿の表 大阪府東成郡鶴橋町大字猪飼野 和式帳簿の表紙や人名簿、 (現 通帳などの製造販売を行った。 大阪市東成区大今里) 地先に

> そして大正十一年には同じ猪飼野の地に工 洋式帳簿の罫引や印刷を開始した。 場 (猪飼野工場、 写真7)

式市場 いだ。

の暴騰などが

相次

製品は依然として新町の店舗へ運ばれ、 びたと言われる。 ・ 罫線機三台が設置され、 :家一貫製造の濫觴と言える猪飼野工場には、 また、 同工場では洋式帳簿の自家製本も一部開始したが 従業員は約四〇人、 同店から出荷された。 月商は六万円から七万円に伸 設立当初六台の活版印 刷

## 関東市場の開拓と 「東京国誉会」の結成

問屋を流通のチャンス 蔑視する風潮があり 阪製の商品のことを 当時有力な文具卸問 そのようななか、 大正期を通じて改良 里ねられた黒田国光 又具店ブラン として特に大阪か 客を釣 九二三 に 売店では取 ーサカ 大龙。 ど次々に広まった。一方で、 あった関東市場では、 大震災が起こり、 0 製品は、 てもらえなかった。 「ハンモノ」と呼んで 文具卸問屋や紙 東京地 大



写真8 東京国誉会集合写真(10周年記念時) 前列中央は黒田善太郎。昭和9年頃撮影。

を設立

て「東京国營会」(写真8)が結成され、同会は東京市場進出への礎となった。て、東京国營会」(写真8)が結成され、同会は東京市場進出への礎となった。て製品の増産を計ったが、黒田は関東に出荷する製品の検査をより厳重にするとともに、自身の「良品廉価」の信念に基づき他社が製造した製品より安とともに、自身の「良品廉価」の信念に基づき他社が製造した製品より安は高速が生じた。この緊急事態に黒田国光堂は、工場の設備を漸次増加し区の紙製品メーカーが製造不能に陥ったため、関東からの需要が関西に殺到区の紙製品メーカーが製造不能に陥ったため、関東からの需要が関西に殺到

# コクヨ最初の自家一貫製造工場 ― 中道工場の設立:

7

真9) 中道 機六台を有し、工場では約 約五〇〇坪)建ち並び、設立 の象徴として挙げられるのが 造販売体制を備えた紙製品製 を機とする東京市場への進出 黒田国光堂にとって大正時 一丁目他) 地先に設立さ である。⑤中道工場は 〇坪 黒田 の機 の確 商業 堂最. 向け に依 瓦葺 新築工 み出す 活版 た加工 建が五棟 成となった。 から近代的 中道工場」(写 ハや関東大 台、 罫線 (建坪

の時、黒田は中道工場内の場所を無償で下請業者に提供し、その後、請負制制度で製造を行うことで下請依存を解消した(和帳製本部・写真11上)。⑥こ前より和式帳簿の製本工程を請け負っていた下請業者を工場内に集め、請負しかしながら、昭和五年(一九三〇)には中道工場内に建物を増築し、従

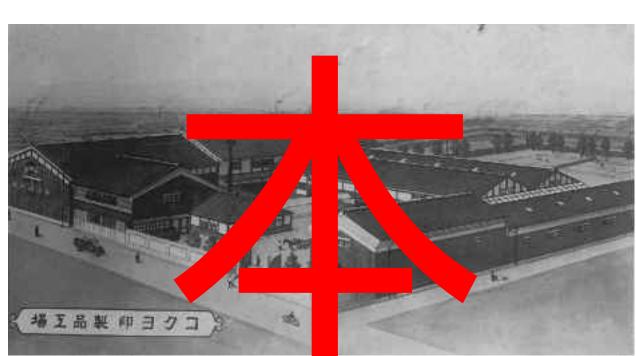


写真9 黒田国光堂初の自社工場である中道工場



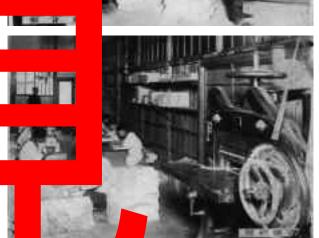




写真11 中道工場の和帳簿本部(上)と注彙

員となった。 工場」が完成してしばらくした後、ほとんどの請負業者が黒田国光堂の従業果、昭和十一年(一九三六)に大阪市東成区大今里地先に「旧本社・旧本社度の専属業者を徐々にではあるが中道工場の従業員として吸収した。その結

## 「コクヨ帳簿紙」の開発

(上)と洋帳綴部(下)

8

り、当時勃興期にあると教職業界と協力しく動入紙と比べて遜色のないることや材質、価格な、供給面で安定さを欠くしから、大正時代の中頃よを帳簿紙として使用していた。しかしながら、輸入紙では入荷が不如意であ済式帳簿の製造を開始した頃、黒田国光堂は他社同様に英国からの輸入紙

国産帳簿紙の開発に著

していた。

紙の抄造を依頼した。 をかけて紙 を持参して王子製紙 展示会で広く業界に国 劣らない品質の国産 (列品番号14) と命名 昭和二年(一九二 された。 中道工具 王子製紙は黒田 ことに成功し 小倉工場 品質は され 五年に三越で開催された 堂とともに約三年の歳月 人紙に劣らない国産帳簿 この紙は 黒田は英国製の輸入紙 「国誉帳簿紙 輸入紙に

産帳簿紙誕生のエピソードのひとつとして今日に伝えられている。会い、ある時は決して満足いかない紙でも買い取っていたことが、理想の国は、昭和十二年ごろといれているが、そのよう、田は毎回抄造の現場に立黒田国光堂が求め、質の帳簿紙が使り、供給されるようになったの

## 「色紙付書翰箋」の発売

9

が国における紙製品製造業の近代化を推し進める草分け的存在となった。更に最も適した紙「3K便箋紙」(列品番号23)の抄造など、黒田国光堂は我の最先端印刷機「二回転凸版印刷機」の導入、理想とする国産帳簿紙や便箋昭和二年(一九二七)の中道工場設立後、和式帳簿の下請依存解消や当時

に時を同じくして、昭和七年(一九三二)には大ヒット商品「色紙付書翰箋」 (列品番号25·44) が発売された。

り広げられていた。 業者の数も多く、 和初期には既に大衆製品となっていた便箋の需要は増大で、それが 単な意匠の表紙を付けた便箋が製造販売され、表紙の意匠は次第に他の業者 当時販売していた便箋「国印」(一○○枚)「光印」(八○枚)は、 と同様に日本画風の静物や風景物が多くなったと言われている。® また、昭 く台紙に便箋紙を付けただけの簡単な製品であった。その後、大正九年に簡 黒田国光堂による便箋の製造は大正三年(一九一四)から五年頃に遡るが、(で 当時、 業者間では表紙絵に採用する流行画家の争奪単 表紙も無

そのようななか、黒田国光堂 阪の紙製品総合業者の岡本 以後、「便箋と言えばコクヨ る表紙絵に採り上げるのでは を採用し、当時流行していた に付けた。⑨この消費者目線 昭和初期、「白梅便箋」 廉価な美術全集などが で 生ま 箋のタ れた声 -画家 色 の便気 発想 品を もの 門業老 する席 変を大 易や擦れが生じ 占有してい のる東光堂と として書翰箋 がるとと

## 10 販売網の拡充と工場の新設

力な紙問屋三店との共同出資による「株式会社コクヨ商店」(写真12上、列 商店として製品を販売してきた黒田国光堂の店舗を主体として大阪市内の有 あたった。そして翌年、販売網のさらなる拡充を計るため、創業期から個人 中央区博労町一丁目他)地先に三階建の営業所を開設し、近畿地区の販売に 寺橋の店舗も次第に狭小になったため、 工場から遠いことや手狭になったことから、大阪市東区安堂寺橋 市中央区安堂寺町) 昭和二年 (一九二七)、コクヨ製品の販売店舗であった新町の店舗が中道 地先へ移転し、 営業所を設立した。 昭和八年、 同区博労町(現 しかしながら、 現 安堂 大阪

> 代理店統合の初例と位置付けられている。 品番号26)が発足した。本例は紙製品製造業である黒田国光堂を中心とする

た (列品番号27・28) 在のコクヨ株式会社本社所在地に旧本社 た。そこで、更に高い生産性を実現するため、昭和十一年(一九三六)、 七・八年から昼夜操業で対応したが、ついに注文に応じきれない状況に至っ おける需要も順調に増大した。増え続ける需要に対し、中道工場では昭和 結成一○周年を迎え(写真8、列品番号12)、信用で築き上げた東京市場に 販売網の拡充に加え、このころ関東大震災を機に結成された東京国誉会も (写真 ・・・旧本社工場を新設し 現

ほか、⑩翌年には同て 度のもと製 始まった。また、和 従前からほとんどを一 旧本社工場には安置 橋の店舗にあっ に依存して 帳簿は、 を新設 従前 機を移して複写部を開設し、

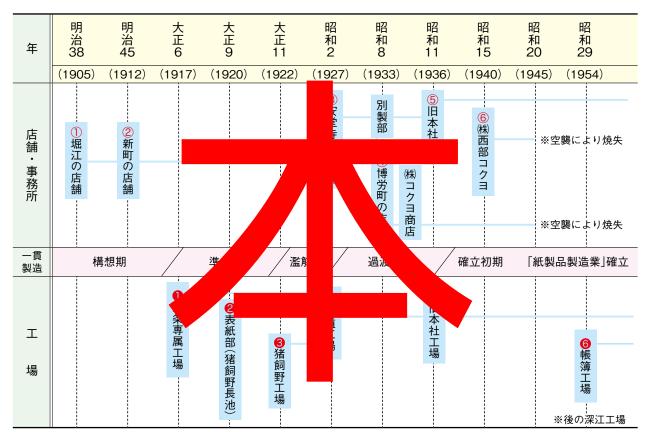
り専属業者による請負制 バインダーの自家製造も 家製造体制をほぼ整えた 場に統合した。



写真12 株式会社コクヨ商店(上)と旧本社社屋(下)

至神戸 南森町 空心町 淀屋橋 肥後橋 天満橋 西部コクヨ商店6 太阪坂 信濃橋 条専属工場 白髪橋 問屋橋 四ッ橋 ⑥帳簿工場 ①掘 境川 ⑤6日本社工場 至阿倍野 御堂筋 大阪地区におけるコクヨの店舗・工場の位 (明治38年 昭和29年頃まで) 『コクヨ100年のあゆみ』(コクヨ株式会 06) 12頁 に一部改変。

国光堂は名実ともに紙製品製造業界のリーダーとなった。 に個 類を見ない設備の整った工場とともに紙製品の一貫製造体制を整え、 製造する業者が存在しなかった。 おける黒田国光堂繁栄の絶頂期を築き上げた黒田は、昭和十三年 明治三十八年 人商 店の黒田国光堂を合名会社として法人組織に変更した。 (一九〇五) 0) 創 その後三十三年を経て、 業時、 我が国には既成の紙製品を一貫して 当時としては他に 黒田と黒田 (一九三八) 戦前に



大阪地区におけるコクヨの店舗・事務所や工場の変遷(明治38年から昭和29年頃まで) 『コクヨ100年のあゆみ』(コクヨ株式会社、2006)12・13頁をもとに一部改変。

## 11 国光塾の設立

間程度行われた。また、女子 どの直接指導が行われたほ 養のほか、職業訓練として商 五〇名、女子約三〇名の生徒 工場に隣接した土地に新 れた木 男子に 黒田 記や 一階建 業が 修身 国 光 孰 よるな 剣道 口には、 といった一 の科目以外に 華道、 和裁な



写真13 国光塾男子生徒集合写真(上)と国光<u>塾</u>校



移築された国光塾の校舎(提供:天商同窓会)

ドを行った話が今日に伝えられて内の他の青年学校とともに、パレー

に軍事教練の一環として、

大阪·

参加であったが天長節などの祝

いる。

実際、

当時のエピソードに、

自

り込まれていたと伝えられている。軍事訓練などもカリキュラムに織

大阪市立天 大阪市立天

受け、

二九

3同窓会が中心となって-|九八九)の申し出を

に寄贈された

十年

(一九八五)、

当時の

して建設された校舎は、

八会社社長の黒田靖之助

# 戦時経済下におけ、海外進出

12

北の販売網の強化や一庁との連絡の必要してから旧本社・本社工場と「光塾が設立さ」「和一二年



写真15 株式会社東京国誉商店

店 15 れたもので、 は 0) 商 に「株式会社東京国誉商 こから、東京市日本橋区馬 共同出資により設立さ 店と同様、 前出の株式会社コ 年 区日本橋馬喰町二丁目 可二丁目(現 列品番号29)。 が設立された(写真 (一九三七)、 有力卸 戦時中に焼 東京都 関 同 商と ク .商店 東以

既に太平洋戦争開戦への秒読み段階にあった。 地先に「株式会社西部コクヨ商店」(列品番号36) 昭和十五年(一九四〇)には中国・四国地方や九州地方及び台湾方面への販 失するまで関東における黒田国光堂の販売拠点として位置付けられた。また、 売機関として、大阪市東区北久宝寺町三丁目 · 現 中央区北久宝寺町三丁目 が設立されたが、時代は

ネシア共和国中西部)と満州国 化した。 体制に組み込まれ、翌年あたりから統制経済の影響によって紙の統制が本格 昭和十六年の太平洋戦争勃発により、我が国の産業は軍需産業優先の戦時 物資や労働力不足が進むなか、 (現中華人民共和国東北部) 黒田国光堂はジャワ島 に進

当時、 することで製品の注文を受け あったため、 十四年頃に計画され、既に宮 ジャワ島進出については、 現地の市場は蘭国お 昭和十六年に 華僑玄 本に ワコ の師はこれの小貨隻导が 社 を確保 設立 上な理由で、 行われてい 獲得が困 黒田国光堂の

国光 場を 現地 が初め 助させ すらし カッチ ジャワ島向け 便箋で、 表紙 黒

加え、

書籍

満州国誉印刷紙工株式会社

밂 で

を輸送することが困難になり

また、

ジャワコクヨ商店と満州国誉印刷紙工は、

昭和二十一年、

それぞれ

現

地に赴いていた社員全員が日本に引き揚げた後に終止符が打たれた。

西部コクヨ商店、

東京の

東京国誉商店、 ずは終結したが、 の他政府関係

荒川区

黒

堂は大阪のコクヨ商店や

京工場を空襲で失った。

たものの、昭和十九 じ」の印刷も行われ 料が統制下にあった

九四四 方

品

の製造が中心となった。

政府の専属工

して主に

「公債」「富く

点田国光

軍需工場への転換は免れ

監督工場に指定されたた

司工場では 設備の拡張

菱や伝票などの紙製品に

が、

原紙や材

**惧極的に行われた。** 

築し

地から機械を導入するな

通信箋や軍用帳

の物流統制により内地から紙

昭和十七年頃になると、

戦時

昭

和二十年、

太平洋

写真16

ら印刷機や裁断機などを借り受け、 ジャワコクヨ商店では軍政監部か 製造を続けた。 かつて劇場であった建物内で日本 商社向けの帳簿や伝票類などの

また、 昭和七年 (一九三二) に



(後列左端は故黒田暲之助コクヨ名誉会長)

(写真16・

17

列品番号37)を設立した。

長春市)

に

「満州国誉印刷紙工株式会社」

(現 中華人民共和国吉林省 (一九四二) に満州国

は昭和十七年

都である新京

紙製品の需要が増大すると、

黒田国

1の首 光堂 地

地と比べ原料や労働力に恵まれた同 建国された満州国の治安が確立され、

内

黒田国

同社は現地の

印刷会社である満州秀英社

高州で類を見ない印刷工場

負収して設立されたが、

して掲げていたため、

建

印刷株式

## 戦後の再建

13

紙などの資材調達や輸送に並々ならぬ苦労が強いられた。また、 社 ・本社工場から始まったが、 太平洋戦争後、 黒田国光堂の再建は奇跡的に製造設備が無傷で残っ 戦後混乱期のなか、 統制が継続されてい 昭和九年 た旧・ た原

まずは近畿・関東圏における販売拠点の再建に心血が注がれた。災で失い、創業以来築き上げた全国の販売網も混乱状態に陥っていたため、(一九三四)のコクヨ商店設立以来、東京や大阪に設けられた販売会社を戦

写真製版から印刷、仕上まで 規模で導入したオフセット印 されたコクヨ商店と東京国 会社黒田国光堂」に組織を改 二十四年に合名会社黒田国光堂は、 このように、 貫す 開を た。ま 本社組織や資本充実のため、 同年 に平 戦後の 造体制 10上)を新築 合併し、 時期に相当 戦前し

てこの年に長く続いた紙の統

らどが

昭和二十五年、

前年のシャ

勧告

づき

色申生

が導入され

写真18 平版印刷場(上)と開設当初の九州支庁

いて工場の新築や拡張が行われたほか、新しい機械設備が導入された。簿などの需要が同社に集中し、以後、昭和二十年代後半はほとんど毎年にお原発的に増大した。しかも、戦前戦後の黒田国光堂の実績や評判から洋式帳であったことから、帳簿やバインダー、その他の事務用紙製品の需要がた。青色申告には正規の簿記の原則に従って作成された帳簿の備え付けが不

## 販売網の拡大

14

翌年には福岡市に九川 会社京都営業所」を 作りも急ピッチで進め 加速度的に増大した需要に対応すべく、 りに、翌年には れた。昭和二十五年 (写真18) 全国 教設 会社名古屋コクヨ商店」その 都市における販売の 五〇) た。 0) 「国誉商事株式 拠点

例として、黒田国光学・「高等壮郎にある」、「青和業材式会社ほか在阪を専門に供」」、「青和業界」、「青和業材式会社ほか在阪売業者の業態が見直さ、「青和業界」、「「本本教」、「青和業界」、「大本教製」、 者の製品を扱っていた卸



与具19 コクヨ専門代理店第1号の伊藤商店 今年

になった。 により、 げられる。 二十七年 (一九五二) 共同出資により昭和 ヨ部と黒田国光堂 卸売業者五社のコク 理店が誕生すること コクヨ商事株式会社\_ に設立された「大阪 (列品番号47) 六〇〇店に及ぶ画 的なコクヨ専門 取引販売店 同社設立 が挙

\*

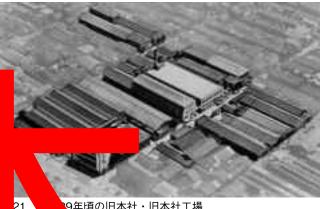
\*

は、この黒田国光堂の歩みとともに成立したといっても過言ではないと思わ 文具問屋や紙問屋から自家 のそれには「紙製品製造業 本標準産業分類に「紙製品製造業」のこれは見じよいが、昭和三十二年 れる。このことは、 しての地歩を確保するまでの道のりであった。そして我が国の紙製品製造業 代を通じ業界の先駆者として紙製品製造業を確立するとともに、リーダーと そして、紙製品製造業という 昭和二十九年(一九五四)十月二日、黒田国光堂は創業五〇周年を迎えた。 明治三十八年(一九〇五)の黒田表紙店創業以来、大正、 当時の通商産業省が公表した昭和二十九年二日 造体 い産 よる 的紙制 紙製品 1移行 らかである たことを意味 る造が従来 昭和の時



創業50周年記念祝賀会で挨拶す 写真20 (昭和29年、新大阪ホテル)

四十一 創的に取り組んだことによるも 売 勢を見極めながら特に製造と販 税制改革など、常に世の中の趨 に至る大衆文化の開花、 簿記の導入や大正から昭和初期 めて以降、 紙店が和式帳簿の製造販売を 流通の両面で先駆的且 年 大正期における複式 九〇八)に黒田 戦後の 一つ独



らしたほか、

正枚数の表示や色紙付

の導入などが製品製造に安定をもた 負制度の採用、オフセット印刷設

9年頃の旧本社・旧本社工場

られる。また、それらに加

行った従業員教育や人

どが挙げ 書翰箋など消費者目線のアイデアな

一方、

売 ・

流通面については、

と言

♥製造面のみならず販売

、組みとして評価に値す

と成長を図るといった目 造者である黒田国光光 る。その背景には、 に分散している紙問 豊富で安定的な制 論見があったとされる 販路を の供給を紙問屋 体的な協調関係 は販売な 当時同常 その確 ることで、販売店として製 出し、 連にも実績があり、 在が紙製品の 販路を 文具 た紙問屋と競合するより 尽くしたことが挙げら 紙製品市場の安定 黒田国光堂 各地

一光堂

貫製造体

者と £

確固 紙製

たのは、 地位な

られ、 行する新し 労働集約型の製造体制から合理的且つ省力的な製造体制へと急速な転換が図 昭和二十九年(一九五四) 昭和三十年代に入ると海外からの技術や設備の導入もあり、 ートやファイルなど軽便な事務用紙製品や学用紙製品へと需要が移 い時代を迎えることになる。 に黒田国光堂が確立した紙製品製造業の業界 これまでの

国誉帳簿紙や3K便箋紙の開発、

製造面での取り組みについては、

のであった。

②「黒田善太郎さん」編集委員会『黒田善太郎さん』(富山県立富山商業高等学校、一九六四) ③田中経人『文具の歴史』(リヒト産業株式会社、一九七二) ①黒田国光堂創業五十周年記念誌編輯委員『五十年のあゆみ』(株式会社黒田国光堂、一九五四

④コクヨ株式会社七○年史編集委員会『コクヨ\*七○年のあゆみ』(コクヨ株式会社、一九七五) ⑤コクヨビジネスサービス株式会社『報恩感謝 黒田暲之助』(コクヨ株式会社、二〇〇六)

⑥コクヨビジネスサービス株式会社『コクヨ一○○年のあゆみ』(コクヨ株式会社、二○○六)

(1)長柄町が「富山」を冠称するのが明治十七年(一八八四)から明治二十二年とされているが 「新川縣下第十大区三小区新川郡富山長柄町」(明治九年二月作成)には富山の冠 (『角川日本地名大辞典 一六 富山県』、角川書店、一九七九)、富山市立図書館町 人の占地図

め、本稿では富山を冠称する地名を用いた。 第一〇巻四

(2) 久野秀男「日本近代会計成立 一九七四)、八頁

(3)文献③、一三一頁

(4)渡邉喜久「工業会計の理論と計 一九九六)、三九頁 いての **世学園** 究记要一第

(6)洋式帳簿の製本工程については、 (5)中道工場建設の最大の理由は、大 が決定し、それによって猪飼野工 たり、同工場付近に製本専属工場 地が分 り九々 れるた あった。 市営電 中道工場新設にあ 玉造今里線の開通 一二一頁

(7)便箋の製造販売年についてはは文 って異

長谷川 表紙のデ

田

(8)表紙絵のデザインを検討するにあ

哥村・渡辺幽香らが中心)を交え

検討したと言われている。文献④

(9当初は『忠臣蔵』一二段の絵を日本画の大家に別注し、色紙に再現したものを付録にする られている。また、色紙は一○色以上のインクを用いたオフセット刷りで制作された。文献④、 であったが、一流日本画家の傑作二四点の色紙に変更された。その理由として、一部の収集 五八·一一四·一一五頁 に独占される傾向にある名画を広く大衆に紹介するといった社会的意義もあったと今日に伝え

(10)戦前まで複写部は印刷部門のみで構成されていた。製本部門が整えられたのは戦後のことであ る。文献④、六九・一二七頁

Ⅲ天商同窓会「天商会館」(『天商同窓会報』第五六号、二○○八)、九頁。なお、移築された当 時の校舎は、高等学校の統合に伴い平成二十年(二〇〇八)に解体された。

20現在、日本標準産業分類については総務省統計局が所管している。

# コラム1 コクヨの礎を築いた黒田善太郎の「天職論

コクヨ時代)に築き上げた仕事ぶりが表されている。 挙げられるが、そのなかでも黒田の「天職論」には、コクヨを紙製品の王国(大 今日に多く伝えられている。すぐに思いつくものだけでも「金の商売、粕の商売」 「良品・廉価」「天職論」「阪物(サカモノ・ハンモノ)の名誉回復」など幾つか コクヨ株式会社の創業者である黒田善太郎にまつわるエピソードや理念は、

うことに尽きると言 職に打ち込むという その天職を守り抜か る。そして人は天職 両親や先生、社会の 黒田の「天職論」 \*\*\*|潔に述べると、人間はな ならないという けで成長すると、やが カの一生を打ち込み って紙 めある限り全ての能力を傾け、 なとつの天職が授けられ を作り、そして売るとい つまり、黒田にとって天 ご何も持たずに生まれ、

造も指摘している。 いことは、十六年間 的な紙製品をもっせ めにより せつせと责るのみ りを間近で見 た当時の取締役、置塩泰 これより他に見当たらな

実際に、黒田が紙

を築き上げた背景

株式投資や土地の買占

しながら良心

業を育て上げること 屋だ」と公言するほ 身の平明で直接的な 当時、コクヨが製 めて難しいと言われ 職論」のもと、明治三十 けが少なく、手覧 る既成の事務 品は る割には簡単な製品だけに企 田自ら「自分は一文菓子 しかしながら、黒田は自 九〇五)の創業から

今日のコクヨの礎を築き上げた。 を根底として紙製品を製造し、販売し続けて 「努力」「忍耐」「克己」といった人生の哲理 大正、昭和の三代を通じて約五○年間、「誠実」

### 【参考文献】

コクヨ株式会社、光をたたえて、編集委員会 (コクヨ株式会社、一九六八) 『光をたたえて 故黒田会長 ″想い出の記、集』



▶黒田善太郎

### 黒田国光堂(コクヨ)の紙製品製造販売業確立のあゆみ

和暦	西暦	内。  容		
明治38年	1905	10月に黒田善太郎が「黒田表紙店」を創業、和式帳簿の表紙製造を開始する。		
明治41年	1908	印刷製本を下請に発注し和式帳簿を製造する。		
明治45年	1912	7月に新町に店舗を移転する。		
大正2年	1913	洋式帳簿の既製品化を開始する。		
大正3年	1914	10月に店名を「黒田国光堂」と改称する。伝票・仕切書・複写簿の製造を開始する。 この頃に便箋の製		
大正6年	1917	九条に専属工場を し、明貝両皮によるに	トナプリスで得る人が	*制を整える。商標を「国營」と定める。
大正9年	1920	5月に猪飼野長流 紙部を新設し、和帳表紙・人名		<b>重帳の製造を開始する。</b>
大正11年	1922	猪飼野工場を設立		羊式帳簿の自家製本を開始する。
昭和2年	1927	中道工場を設立し ・ 貫作業の基礎を確立する。また 内部」、中道工場 「地方部」を設け、前者は京阪神		前を安堂寺橋へ移転し、同店舗内に「市 者は地方の販売を担当する。
昭和4年	1929	2回転印刷機第二		
昭和5年	1930	和式帳簿の製本等中道工場に集め、請	負制度によ	きを開始する。
昭和7年	1932	「色紙付書翰箋」		
昭和8年	1933	博労町に店舗を利 開始する。		#を別製部とし、別注品の製造と販売を
昭和9年	1934	6月に東京国誉会創立10 記念して、 阪市内有力卸商との共り によるコクヨ	大社参拝 を博労町	旅行( ) 27日)と大特売が行われる。大 に設立
昭和11年	1936	旧本社・旧本社・日本社」「複写部」ナー、複写簿の自家製造を開始する		
昭和12年	1937	3月に若・		
昭和13年	1938	1月に個人商店から法人組織「合名会社黒田国光堂」に変更する。		
昭和15年	1940	北久宝寺町に西部コクヨ商店を設立する。12月、荒川区三河島町に東京工場を新設し、帳簿や複写簿、 単式の製造を開始する。		
昭和16年	1941	ジャワ島にジャワコクヨ商店を設立 <mark>する</mark> 。		
昭和17年	1942	2月に満州国誉印刷紙工を設立し、 に	し、に黒田暲之助が就任する。	
昭和19年	1944	本社工場が陸軍需品本廠監督工場に	1、通信箋や1	軍用帳簿、政府関係印刷物などを製造する。
昭和20年	1945	2月に東京 満州国誉日 品の製造を再開する。		
昭和21年	1946	5月、麹町区に東京出張所を す		
昭和22年	1947	5月、東京国誉商店跡地 立する。11月にオフセン 利機を 造を開始する。		
昭和23年	1948	帳簿綴機を導入しから機械器われ	3.	
昭和24年	1949	4月に合名全 <u>国光堂と関連会</u> コー式会社黒 造を開始	カヨ商店、東	で店、西部コクヨ商店)が合併し、「株 やオフセット印刷の自家一貫製
昭和25年	1950	大今里に複写工場を新設する。伊藤	東京)がコク	ヨ製品専門代理店第1号店となる。
昭和27年	1952		6月、福岡市( 反コクヨ商事:	に九州支店を開設する。8月に黒田国光堂 を設立する。
昭和28年	1953	1月に旧本社の帳簿工場を増設。6月、港区に品川倉庫が完成する。		
昭和29年	1954	4月に帳簿工場(後の深江工場)を新設し、本社工場より帳簿部門を移設する。10月に創業50周年 記念式(社外祝賀会 於:新大阪ホテル、社内祝賀式 於:大阪市中央公会堂)を開催する。		

『コクヨ100年のあゆみ』 (コクヨ株式会社、2006)「年表」152頁~155頁をもとに再作成。

# [解説2]コクヨ創業者・黒田善太郎の人物像

# 愛荘町立歴史文化博物館 学芸員

西連寺 匠

### はじめに

際に語られたことは「社長おは話好きであったといい、社員や周囲の人々とよく座談を行っていたに携わり、同社を紙製品工業のトップにまで成長させた人物である。太郎黒田善太郎はコクヨ株式会社を創業し、以降、八七歳で逝去するまで経営



# 1 黒田善太郎の生い立ち

製造業を営んでおり、当時マッチは日本で製造されて間もない頃であるたコクヨ株式会社の創業者、黒田善太郎は富山に生まれる。黒田家はマッチ

今までの倍働ければ はすでに馴染みの仲間 働く。一六歳になると雑穀仲買人として独立する ピソードが残っている。そのような子ども時代を過ごすなか、明治二五年 育った善太郎は、子どもの頃から負けず嫌いだったようで、病気によりしば め、 の仲買人より一割高 マッチ製造の事業は人手に渡り、善太郎は親戚の雑穀問屋で「小僧」として 田家に対して世間は冷たく、悔しい思いをしたと後に語っている。その後、 (一八九二)、一三歳の時、父が三八歳で他界する。一家の大黒柱を失った黒 らく学校を休んだ際に、学業成績が下がったことが悔しくて涙したというエ 善太郎の父は新進気鋭の実業家であったことが伺える。そんな家庭で か存在し、新参者は と考え仕事な つことを農家に 囲 儲けが減ると案じられるが、 維穀の取引を行う農家に いされる中、善太郎は他 かせたという。このこと 馴染みの仲買人をひっく



また、この頃から東京かに出たいと考えるようになる。大阪で運送業を営む親戚から、一人前の商人になるには大阪で修業しなければいけないと聞かされたこともあり、大阪で商人たこともあり、大阪で高人

する」と気付いたと語る。

れば利益が得

>精神の基礎となってい)考えは今後善太郎の経

返すことができ「苦労さ

二〇歳の頃で、祖母や母、善太郎が郷里を出たのは

誓ったという。 懇意の人達に見送られ、 自分に期待するその姿に大阪で身を立てることを

うちに仕事を見込まれ番頭を任せられるようになり、ここで商売を覚えてい 製造業に従事する。和帳の表紙製造は、和紙を何枚も貼り重ね、 ではあるが、 でこすってツヤを出し、表紙の厚紙をつくるという仕事である。 仕事をしばらく転々とする。二三歳のときに小林表紙店に入り、 大阪では、親戚の経営する運送業から始まり、 刷毛の塗り方や作業工程の改良などを行い、 マッチ製造や干物屋などの 熱意を持って働く それを茶碗 和帳の表紙 単純な仕事

取り組み、 後のコクヨの創業の精神「カ さえすればカスの商売などあ ているのはカスの商売だ」と から「世の中の良い商売は腎 二七歳になると善太郎は独立 世の中の役に立つ ない こされ な価 商売 生み 考え な仕車 いう。 太郎は 埋んで 誠心 誠意 しのとき、 っている。 仕事に惚れ ている。

天順

けるれ

九天

5

かく

人が貴

のずか

即業の精神として善太郎 王うしうる。」とあるが

に作る一ことに重きを置

の頃にすでに

アージ、造り、そして売れば、

数して 限り自ちの

帳の一貫製造を行う。 開業後は作業工程の効率化 表紙 

式会社の礎を作っていく。 その後は前頁の解説にもあ こおり 式帳 既製品 株

## 買う身になって作る

2

が今もなお受け継がれている。 コクヨには生前の善太郎が残した「経営の信条」という、次のような一文

それは、 よって心身ともに成長し、やがて、社会に出て一つの仕事を与えられる。 人は無一物でこの世に生を享け父母の恵み・恩師の導き・社会のお陰に 天より授けられた天職である。

旅心誠意不言實行

てある、佐

おのず

天職には貴賎の別なく、 人が生ある限り、 自らの全力を尽して全うせね

> 仕事を与えられたはよって心身とした成長し、やがていめて一つの 母の恵み・思師の女に生を享り、父人に無一れてこの は無一物でと 管の信

れる「経営の信条」 写真3 コクヨ

は

「買う身にた 三株式会社

切である。

ラサる ならぬ

8

善の \*

自与 持る最

真心音似七頁 行サる事であ

5

多かった。このことから善太郎はよく引き 用していた に紙の引 で販売される事が容認される商慣習があっ 都合で歩減りし、実際には若干少ない枚数 の帳簿は「中味百枚」としつつも、 が使いやすい帳簿を開発した。また、 締めた表面の滑らかな紙を特注し、 ると引っかかる た。これに対し善太郎は、 念としてあっ が甘く、 めに書きにくく、 この紙はペンで記入す 和帳は墨と筆で記入する 厚みを持たせるため ザラついた紙を使 中身が足りな 製造 苦情 消費者

得ることが、最も大切である。 ばならぬ。 人に信を得る最善の道は、 天職を全うするには、 自ら誠をもって 0 信

職はおのずから全うし得る。 おのずから信用し、人に信用を受ければ天 真心を以て買い、造り、 実行することである。 そして売れば、 人

ある。 誠心誠意不言実行―之が私の経営の に信条で

ことは消費者をだましていることになるため、中身の枚数が確かなものを届 簿は他店より値段が高いものの、品質が良いことから信用されるようになる。 けることが製造業としての良心であると考えた。中身の枚数が正確なものを 周囲の店からは反対があったというが、善太郎は押し通したという。 表紙に「正百枚」と、中身の枚数を表示した。すると黒田表紙店の帳

郎はこの便箋を作るにあたり、他企業にはない便箋を作ろうと、コクヨに来 や使い勝手などを聞いていた を聞き集めた。病床に伏し入院中でも、 る販売店の店員や自家の家政婦など様々な人に便箋の使い勝手にく また、コクヨのヒット商品として「色紙付き書翰箋」が挙げられる。善太 看護師に便箋を購入するときの 変だが、

うな精神で作られた商品は消費者にとって得となるはずで、そのような意味 駄なものをできる限りなくしていくことが必要であると説いている。このよ 品」をできるだけ廉価で作ることが製造業者の務めであり、安くするには無 る程度の保存ができるものが 特に事務用品は実用に耐えることが重要であるため、使うことに便利で そこに「贅」があり、贅沢な かしコクヨは「良いものを作 黒田表紙店の時代に得た経験 る」ということは、現代で言 ように売れ、すぐに便箋とい くは売れなかった。しかし、 番よく知っている」と語 他に、善太郎はコクヨの 善太郎は「本当の消費者の 「良品」の条件であるという。また、その その が最 名が つつい ころの る。 コク いう よさ 兼価 付く して する とは限ら ものとい )身になって作 たという。 年後には チにあたり、 分かる。

黒田は会長となってもよく工場の視察をしており、 黒田帳簿店としてはじめた、製造業出身の人物であるからであろう。 経営者となっても善太郎がここまで商品の実用性にこだわったのは自身が 商品や工場のムダを見つ 生前の

うことを重要視し して誠実に付き合 で「廉価」になるという。

費者にとって本当に必要なものを追求し、 けるとよく叱っていたという逸話が残る。このような話からも、善太郎が消 を還元することを目標にしていたことが分かる。 商品・価格によって消費者へ利益

## 3 誠心誠意不言実行

善太郎の息子であり 取引する企業に対 いるものは多く、 と善太郎が説いて いも大切にすべき 先などとの付き合 た話など、 こない、 簿の公開などをお 理状況の説明や帳 あたって自社の経 にも、工場設立に た、コクヨ あったようだが、古っ を優先し、支払いも 売ってほしいという 申し出た。一方で、 善太郎は取引相手や従業員、 る。これにも善太郎の経営哲学が良く現れている。 戦後すぐ、経済が湿 黒田善太郎の残した「経営の信条」には他に「誠心誠意不言実行」ともあ 信用を得 仕入れ たとい があったとい 国光堂の商品に 9る中、経営難に陥 社会に対して誠実 先を守れない 目会長の黒田 時同じ、 か いくらでも出すから優先的に り続け、成功している。 引先は支払いが遅れると **助に巨想している。ほ** なことはほかの企業でも 前章にもあったとおり、 な企業は生き残れなかっ 太郎は古くからの取引先 れている、と



工場を視察する善太郎 写真4

ていたことが分かる。

ができてこれほど嬉しい事はなかったと語ったことが残されている。 意先だけでなく従業員にも演劇を見せたいと思い交渉した。一緒に見ること に思うが、善太郎の座談では従業員との親密な関係性が多く語られている。 員について語る際、どのように従業員を扱うかを取り上げることが多いよう 例えば得意先を招待した工場参観の中座で演劇を見る予定があったが、得 善太郎は従業員へも真心をもって接している。よく、経営者が従業

用し、入社後に教育をする 生は男女五〇人ずつで、国語 かりしていれば学校出の人間 成し、コクヨの業績が上がっていくなか、学力のある従業員が必要 しかし、思うような人材が集 従業員の育成・学力向上にも力を入れている。昭和一一年に本社上場が完 よっよいっと。そこで等気彫ま「人間さえ 道ない 収教恙 政を作った。 子歴を問わず



㈱コクヨ工業滋賀の敷地内に立つ黒

くない。 ある黒田マサが教えた。この国光塾を経てコクヨの幹部となった社員も少な 珠算・剣道などを教育した。女子には華道・茶道・和裁などを善太郎の妻で

員への心配りも善太 の まされた、など、叱られただけではないエピソードも残る。このような従業 で失敗をして善太郎に叱られると思いきや「若者は委縮してはいかん」と励 の従業員が善太郎の語った言葉について思い出を記している。中には、 いくつも記している。善太郎の亡きあとに追悼で制作された文集にも、 ほかにも問題を抱えた従業員にこのように話をした、叱った、という話を 在営者としての特徴で 多く

など、さまざまな社 戦犯受刑者の家族の の出資をし に来た青少年の就職が ヨ)は社会貢献につ 営によって社会へ奉生 得られる、社会からの 他に善太郎は、商者 脈を行 断であると説い 行た利潤は自社の 対 後のため<br />
に近畿富 同仁会」を結 ている。善 ととい 社会貢献したことによって 事実、黒田国光堂(コク 寄付運動や慰問状の配布 館の設立を提案し、 のため、自社の製品や経 のように、富山から大阪 付を行ったり、 多額

いる。 いる。この取り組みは んでおり、聴覚障が そして、当時進ん 仕のコクヨ子会社 を採用し、指導 なかった障 崩 工夫など職場の整備も行って Kハートに受け継がれて いても早い段階で取り組

とにつながっており、 このような企業・従業員・社会への誠意ある行動が、 結果さらなる利益をもたらすのであろう。 「人の信」を得るこ

を慈悲ある人物として評価しているがその慈悲深さが企業理念にも表れてい 富山県人会で善太郎と親しかった、住友本社常務理事の田中良雄は善太郎

る。

## ・平凡にして偉大

性や画期的な経営手法に注目されることが多い。日本を代表する企業の実業家というと、時勢や需要を見極める優れた先見

業を、広告などを巧みに利用 一段販売戦略 では、化学薬品の需要の波に上手く乗り事業を拡大する。また、 店を経営している。鈴木は交渉能力に長けていたといわれ、商談を上手く成 店を経営している。鈴木は交渉能力に長けていたといわれ、商談を上手く成 店を経営している。鈴木は交渉能力に長けていたといわれ、商談を上手く成 店を経営している。鈴木は交渉能力に長けていたといわれ、商談を上手く成 にを経営している。鈴木は交渉能力に長けていたといわれ、商談を上手く成 であた、 一八六八―一九三一)が挙げられる。鈴木三郎助は善太郎と同じよ

現代まで評価されている。業を、広告などを巧みに利用

6 葬儀後、各工場を回る黒田善太郎 がら守っている 高品質化 での事業 がら守っている がら守っている で 第二次世界大 が 軍によって徴用 が 軍によって徴用 された。 企業に された。 企業に された。 企業に された。 企業に なっては徴用され

写真6

が大きく変わる事

態を変え軍需工場に変わっていった。になるものの、仕事を確保できる上に支援もあったようで、多くの企業が業

当時のコクヨ(黒田国光堂)も今里工場が海軍から徴用され、鉄鋼業となる予定であった。しかし、善太郎は紙製品製造から離れる事はできないとして、陸軍に紙製品を製造させて欲しいと頼んだ。結果、陸軍の監督工場としを知る黒田暲之助は著書の中で、従業員も減り、命脈尽きんとする状態でもを知る黒田暲之助は著書の中で、従業員も減り、命脈尽きんとする状態でもを知る黒田暲之助は著書の中で、従業員も減り、命脈尽きんとする状態でもないる。

業員に厳しく注意し 可能にするのであろう その平凡さを守り、 ない。しかし当然の が繁華街に 力であるとも語って 守りぬくことが、身 己」を生涯守りぬい 太郎の経営の特徴でも 真心を持って仕事 善太郎と交流のあ のことを徹底 を 一 〇 十凡にして貴 人々は善太郎の この「平凡」にあ 善太郎の座談 その生真面目 は事業家に 似でき 产凡 について、「誠実と努力と克 る生真面目さこそが黒田善 ることは難しい。しかし には、信頼していた友人 部分であり、善太郎の魅 評している。この平凡を は善太郎の生来の性格が ては当然のことかもしれ 己への厳しさが分かる。 い方すらも従

針は「一事

徹

の言葉にも表

これとは対容

## 【参考文献】

黒田暲之助『一事徹底』(コクヨ株式会社、一九八九)コクヨ株式会社、光をたたえて』編集委員会『光をたたえて』(コクヨ株式会社、光をたたえて』編集委員会『光をたたえて』(コクヨ株式会社、一九六四)黒田国光堂創業五十周年記念誌編集委員会編『五十年の歩み』(株式会社黒田国光堂、一九五四)

# 〔解説3〕コクヨのキャンパスノート

―コクヨ紙製品の進化―

# 愛荘町立歴史文化博物館 学芸員

山本 剛史

# 1 コクヨ製ノートのはじまり

国大学(現・東京大学)の前にあった文具店「松屋」による売り出日本で最初にノートが販売されたのは、明治十八年(一八八五)に東京帝

制時代で、新規製品の進出で、よく、一入り、い原紙、調達に尽力して(一九四一)に蘭印ジャワ(サインド・シア)、吸立し、ジャワコクコクヨが最初に生産した。

写真1 無線綴じノート

定工場」の看板を揚げて、生産活動ができた。 ドの製造許可申請を通産省の紙業課宛に行い、審査に通れば「教育ノート指紙の割り当てが得られていた。その資格を取る為には、前記の設備によるノー制下の配給枠が設けられ、該当品の生産設備を有するものに限り、ノート用いた時期である。この頃、紙製品工業会内にノート・学習帳に関してのみ統

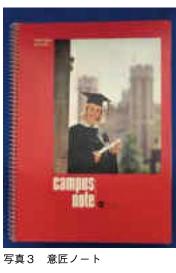
て、昭和三十四年(一九五九)四月に画期的なノートが発売された。ルーズノートを発売し、一九五七年には新たにB5ノートを発売した。そし教育ノートへの一時進出を中止してから、昭和三十年(一九五五)以降に

切り取ると糸がほつり り取る。糸のかがり吹 外側ではページの幅 トの表紙と中紙を重 れまでのノート製本の 昭和三十四年に発声 がだった<br />
糸綴じに<br />
さ グロス貼 中央を糸でかど れたノート(写真1) かバラけやすくな 近い位置が して完 か 技術だった。糸綴じは、ノー ど欠点があった。 り、はみ出した部分を切 る。この構造上、内側と して書きにくく、中紙を 吊された無線綴じは、 そ

固まってしまい製本が じのクロスには補強 貼りを施し完成する。 した表紙とともにノ つの問題があった。 無線綴じ 放じの 討を強く有 らけるという問題だ 平時に使う糊が ホットメ は補強 などの極端に寒い場所だと、 味合いが薄いが、 接着した背部分にクロス 無線綴じには開発当初 と背面で独立 無線綴

近代化、ファッション化、高級化の走りの役割を果たした。目新しいカラー刷りである。これによりフィラーノートは、ノートブックのとながら、若者に受けたのは、「カッコいい軽快なノート」に見える表紙のたページをファイリング出来る製品となっている。その機能的要素もさるこえ、後でファイルできる」というキャッチフレーズ通り、ミシン線で切り取っと二つの穴がある紙をスパイラル綴じしたノートである。「一冊で数冊に使と二つの穴がある紙をスパイラル綴じしたノートである。「一冊で数冊に使と二つの穴がある紙をスパイラル綴じしたノートである。「一冊で数冊に使

昭和四十三年(一九六八)発売の意匠ノート(写真3)は、グレーの無地



を施した製品のことをいう。 化しグラフィカルなデザイン に対して、

表紙などをカラー

が主流だった「一般ノート」

その第一号として、コクヨは

ズ」と呼ばれ、 は「ヤングマン向け 綴じノートを開発した。当時 安価で学生向きのスパイラル

来は、表紙に使われている写 ンパスノート」という名称が ) 中 に のキー パスが っているか ()の名前

初めて

は、

汎用ノート、 気も拡大した昭和五十年 丈夫な無線綴じ技術の改良 初代キャンパス 五五、 み、 者を知 合わせ くだけ ことで最高峰の

### 2 戦略的変更

には大きく二つの理由が存在 キャンパスノートは八~九 ており

性ボールペンが台頭していた時代だった。 が、二代目の時は鉛筆と油性ボールペン、三代目では筆ペンやゲルペン、 材技術の進歩が大きく関わってくる。初代の頃は鉛筆と万年筆が主流だっ つ目は、時代の流れに合わせた進化である。これは、筆記具の変化や 水

合いを変えている。 えられているにも関わらず、十六種もの筆記具の社内試験に合格している。 に適応範囲は広がっている。 表紙の色は、A罫は暖系色でB罫は寒系色を採用しており、時代ごとに色 あらゆる筆記具に対応する紙の開発が行われており、 四代目の時点では、 中紙が全て再生紙に切り替 モデルチェンジの度

> ロゴ配置を変更しグッドデザイン賞金賞を受賞したことが特筆できる。 る。二代目で現行ロゴを採用し、表紙に罫内容を表記したことや、三代目で 回るものである。コクヨは、それらを斬新なデザインによって突き放してい 二つ目の理由は、類似品対策である。市場には、売れる製品の酷似品が出

ここから各時代のキャンパスノートの特徴についてみていく

既に印刷されている。 メージは描かれてはか ジの左右上端にある。 い線を引き、そこに「Campus」の文字を入れたものとなっている。色 昭和五十年に発売された初代(写真4)の表紙デザインは、上部に少し太 あわい黄色と青の二種類だった。現在ではと ン番号や日付を記 シンプルなデザ るスペースは、この初代には り前になっている罫線イ なっている。見開きペー

になっている 罫線イメー かれた「Campu 昭和五十八年(一十  $\equiv$ 発 中心に置く。 1目 穿 にA罫とB罫の英文字と は、 初代より大きく書 !容が分るよう

や、縦置きの際にノー ンパスノートだと分っ いう、今までにない亦 している、「Cam 平成三年(一九九 りにするためだという 部だけ、または下 を行っている (写真6 ロスに 部のみが見えていてもキャ つように縦に配置すると 全体的に色を鮮やかに 店頭での棚への平置き

たに設けたのはこの時期からである。 欄や名前欄、 たな背クロスを採用しており、 文字を最大限に大きく表示している。特殊フィルムでラミネート加工した新 平成十二年(二〇〇〇)発売の四代目(写真で) 中紙にはマージン罫とセンター罫を手軽に引けるメモリ点を新 強度が大幅に向上している。 は、「Campus」の 表紙にタイトル

面加工を見直すことでペンによる書き込みを容易にしている。また、 現在は、平成二十三年(二〇一一)に発売された五代目 「Campus」の文字は下部に横書きで置かれている。背クロスの表 (写真8) にあた 罫内容

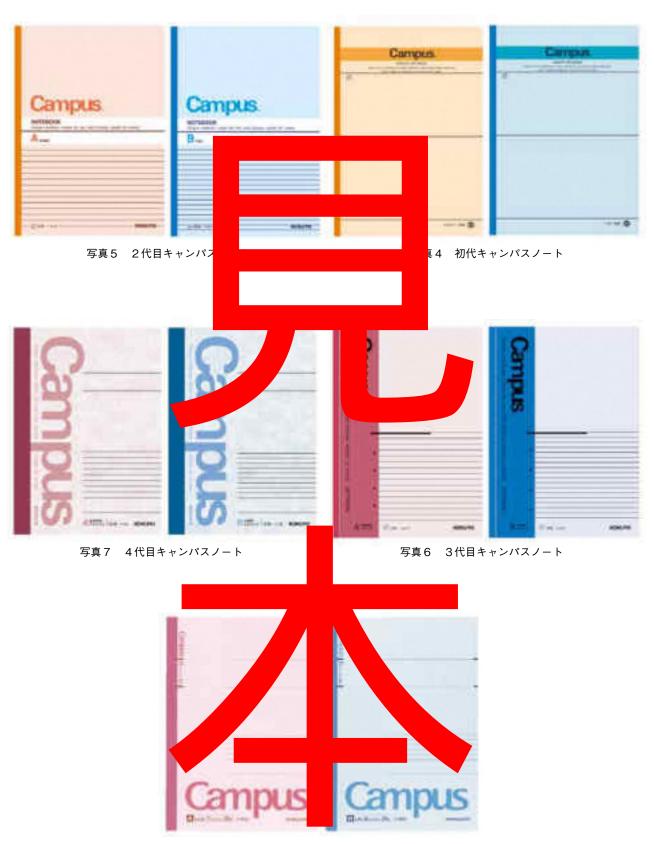


写真8 5代目キャンパスノート

こともない。 状をしているため、ノートを広げずに文字を書くことが出来、文字が広がる 綴じが大きく関わっている。糸綴じによる背クロスは山形となり、ノートを を変更したことで、より線が引きやすいノートに進化している。新たに開発 が横に伸び、見えづらくなってしまう。無線綴じによる背クロスは平坦な形 広げなければ文字が書きにくい仕様である。また、ノートを元に戻すと文字 した中紙原紙により、環境への配慮と快適な書き心地の両立を実現している。 キャンパスノートの背クロスへの書き込みを容易にしている理由は、

る。 るが、細かな変化を見ていく と考えられている。 トの下部しか見えない構造の キャンパスノートの通史で 五代目のロゴの配置変更は、 近年の店舗什器に、 派生 ザイ せて 更は 立っている客からり 行われ ことになって っための変更



という発想で考え出されたものだ。 プルズノート」である。札を数えるようにページをめくることが出来ないか ようになっている。原案は、コクヨデザインアワード二〇〇二優秀作の「リッ で斜面の方向を逆にすることで、どちらの方向にめくる場合でも対応できる 面が斜めに切られており、 平成十七年(二〇〇五)発売の「パラクルノ」(写真9)は、 ページをめくりやすくしている。ノートの上と下 ノートの断

模様になっており、 トを丸めた状態で小口を裁断することで作り出 パラクルノの形状は通常の製本方法では作成できない。 アックスとして使用! いる。 断面はストライプ あの斜面は、 ノ |

F 军 のみだったが、 書ける、 で文字を追うことが出 サイズよりも横幅が 四六㎜であり、こ キャンパス 同じく平成十七年 (英習用) 片 など母 現在 な種類が は人間 m細く作ら の「スリムB5 当初にA軍(七 とされている U 罫 **私点から** 八 (写真10) の他にM罫 ある。横幅はA5に近い と E エ エ エ M M D が首を動かさずに目だけ た、この横幅は無駄なく は、 (縦書き用)、 通常のB5 の二種 類

る。 引く際の基準となる。 このドットにより、図形やずれることのない文章がより書きやすくなってい 線」という、 高い利便性を持ち合わせており、 れは短い定規でノートを三分割するときの基準として用いる。このドットは 太い罫線下に三つ配置 の端にある「・(以下 キャンパスノート 全罫線上に等間隔でドットを配置したノートを発売している。 さらに、中央付近の罫線にも三つのドットがあり、こ れている逆三角形は 旅には細かな ト)」は行数を数 平成二十年(二〇〇八)に「ドット入り罫 くしている。上部と下部の -を縦に三分割する線を 五行ごとに罫線の左右

配慮した原紙を開発、 キャンパスノートは、使用者の書きやすさを犠牲にすることなく、 採用している。中紙には筆記具での書き心地やにじみ 環境に

の両立を実現させている。 の両立を実現させている。 できる限り少なくしながら、紙の不透明度や表ある。また、パルプ使用量をできる限り少なくしながら、紙の不透明度や表ある。また、パルプ使用量をできる限り少なくしながら、紙の不透明度や表ある。また、パルプ使用量をできる限り少なくしながら、紙の不透明度や表がら作られた「森林認証紙」を使用している。森林認証紙とは、健全な森林のパルプにくさなどを良くする為、再生紙を使わず、適切に管理された森林のパルプ

# キャンパスノートの更なる可能性

3

ることを推奨し、その一例が 新の姿だといえる。コクヨの はフィラーノートの時に見出 いらしさや華やかさが目立つデザインの長氏の場局が増と から抜け出した、ファッショ ンパスノートのデザインは、 近年のキャンパスノートは、 他企業との共同企画や限定商品と やされ に重 ムペ たっ る。 らのチ のフ いる。この 4組を飾り付け の表紙デザ いえる。

い。情報の出し入れを容易にするために用いている。コンピュータの発達にいる際の参考として、大学生が使っていたノートに解説が加えられた本や、とがある。現代におけるキャンパスノートは、既に学生の勉学のためだけにどがある。現代におけるキャンパスノートは、既に学生の勉学のためだけにどがある。現代におけるキャンパスノートは、既に学生の勉学のためだけにとがある。現代におけるキャンパスノートは、既に学生の勉学のためだけにとがある。現代におけるキャンパスノートは、既に学生の勉学のためだけにとがある。現代におけるキャンパスノートは、既に学生の勉学のためだけにといる。現代におけるキャンパスノートには画期的な使い方を推奨、提案する書籍が数多く出キャンパスノートには画期的な使い方を推奨、提案する書籍が数多く出

社会人となってからキャンパスノートを使い始める人も存在する。いとしてキャンパスノートは支持されている。周りの評判や、書籍の影響で使えない状況や、唐突に頭に案が出たときなどに走り書きする際に使いやす量は増えていることがコクヨの調査によって判明している。コンピュータがよりノートを使うことは減っているようにも思えるが、実際の使用者と消費

ンパスノートを開発している。今後も新たなデザインや機能を有するノートえる。コクヨは使う人がそれぞれに合ったものを選べるように、様々なキャキャンパスノートは多方面に対応する実用的な機能を有するノートだとい



(列品資料解説)

### 1 —— 黒田善太郎肖像 昭和32年(1957)制作

コクヨ株式会社の創業者、黒田善太郎 (1879)、富山で生まれた黒田は、27歳の時、 を創業する。その後、約50年にわたり紙製 職として尽くし、日本における紙製品自家 した。本作品は黒田国光堂創業50周年祝賀 員より記念品として黒田に贈呈されたもの 匠である和田英作(1874-1959)が手掛け 田の風貌を精緻に描く。油彩、カンヴァス

製造と販売を天 製造体制を確立



昭和11年頃 国光堂会社看板

> <u>|4)、「黒田表紙店」は社名</u>を「黒田国光堂」と改称した。国 -故郷の光--」にならねばという思 <del>本貞村は</del>、昭和11年(1936)発行の『黒田 【念』に「堂主 黒田善太郎」とともに掲載されており、 新築当時に製作されたと考えられる。真鍮製。

### 3 —— 黒田国光堂社旗

大正6年(1917)、黒田善太郎は紙製品の商標を「国誉」(コ クヨ)と定めた。国誉には国光堂の「国の光」と同様「国の 誉れ」にならねばという黒田の思いとともに、決して初心を 忘れないよう自戒の念が込められている。ちなみに、「国 とは黒田の故郷である富山、ひいては日本国のことを指す。 本資料に見える商標 (マーク) は、日本の象徴である朝日と 山桜花をモチーフとし、中央には「国誉」と右書きで記され る。朝日から放射状に伸びる光は、文字の上側に7本、下側 に5本、左右の桜はそれぞれ3輪を数え、「七五三」を意味 する。



### 4 —— 商標看板 昭和時代

昭和になり、商標に採用されていた「国誉」 は漢字からカナに変わり、次第に左書きに 統一された。昭和36年(1961)、株式会社







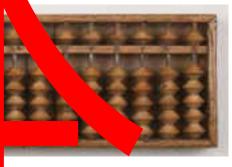
### 6 — 店舗看板 大正9年(1920)修繕

コクヨ紙製品を取り扱っている山形市十日町の青山帳面屋(現 株式会社アオヤマ)旧蔵の店舗看板。木材を組んで大福帳をかたどり、を貼り足した後、正面に「大福帳」左 簿製造所」と記す。また、上面には「 歳」「八月吉日修繕」と記されている。









### 8 — 算盤 時代不明

戦前からコクヨ紙製品を取り扱っていた 長野県小諸市大和屋紙店旧蔵の算盤。裏 側には国誉商標の刻印とともに「コクヨ 印特約店」の文字が刻まれている。







右:大正

項 左:昭和2年頃 右はコクヨ株式会社が所蔵する 長簿のなかで最も年代が

遡るもので、地には「正百枚」 表す丸で囲まれた「百」の文字

見返しには「国誉」と右書きで記された登 票が印刷さ ている。





衣紋

### 昭和9年頃 11 --- コクヨ商店の厚子

昭和9年(1934)に設立された株式会社コクヨ商店の従 業員が着用していたと言われる木綿素材の大名縞の労働 着。衣紋には「コクヨ」と右書きで記された商標が、襟 字には「コクヨの複写簿」「コクヨの帳簿」とある。



### 10 — 衣紋掛 昭和時代

棹の中央部には、「コクヨ」と左書きで 記された登録商標がみえる。





表紙

### 出雲大社参拝招待会記念栞

大正13年(1924)、関東大震災時に東京で黒田国光 卸問屋によって「東京国誉会」が結成された。同 製品を取 クヨ製品の となった。本資料は、結成10周年を記念して催さ 泊7日の出雲 記」のほか、付 道中を詳細に記録した「出雲大社参拝各地を 産業奨励のため黒田国光堂を臨行し (1880 - 1959)ている。

工場の一部に併置し

のでは教育

た12軒の文具 市場進出への礎 参拝旅行の栞。 て同年に優良

展し、昭和十一年七

光堂青年学校」「私立

』 実践女学校」が

り開校の指 勧めた。

►附され、「私立黒田国 3後、話は急速順調に進

青年学校の校長に黒

た工場の

こともあり、青年教育に

熱心な黒田に対して 私立青年学校の開設

一校の開設 所ある実業家に

部には、青年学校の東

一部にられ、学事関係

、業界有力者が多数参列

するなかで開校式が

田が、実践

## コラム2

# 「私立黒田国光堂青年学校」と

塾」は、自社内における若年従業員の人材育成を目的とした施設として知られ 黒田国光堂の店主、黒田善太郎が昭和十二年(一九三七)に開設した「国光 「私立黒田国光堂実践女学校」

ひいては国家社会の 学校卒業直後に黒田国・堂へ入店する青年男女百 立黒田国光堂実践女学校」についてはあまり知られていない。 ているが、それより僅か前に黒田が設置した「私立黒田国光堂青年学校」「私 時あたかも「青年 昭和十一年の晩春、黒田は家庭などの事情により上級学校に進まず、高等小 PJ(昭和十年四日 に自ら何かできないか 庁の社会教育課を訪ねた。 発布直後で、大阪府は に対し、本人の将来、

についても模範にし 業開始前の全生徒に また、新教室には 于校専用 振る舞われ 他校が視察の 教室を訪れることがあった。 〕は勿論のこと、施設面 専任の炊事夫により授

その後黒田は、専 と言っても

▶国光塾校舎

## 参考文献

に落成式を挙行した。

塾」校舎と運動場を新設し、三月七日 十二年、工場付近に独立した「国光 に支障をきたすとの見地から、昭和

清水益次「私立黒田国光堂青年学校. 「私立黒田国光堂実践女学校」の回顧

(『国誉』創刊号、

一九三四)

28





(故百查亚)

### 13——和式帳簿 昭和10年頃

商標と 見返しには一部を除き「コクヨ」と右書きで記された 「正壱百枚」の文字が印刷されている。また、当時の 価格は昭 和13年(1938)の小売表から1冊38銭程度であっ がわかる。



### 14 ——洋紙見本帳 昭和10年(1935)

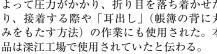
昭和2年(1927)、黒田善太郎は英国製の輸入紙を て王子製紙 (現日本製紙) 小倉工場に輸入紙に劣らない国産帳 か抄造を依頼 した。その後、王子製紙は黒田国光堂とともに約3年の歳月をかけて 輸入紙に劣らない品質の国産紙を抄造することに成功し、その紙は 「国誉帳簿紙」と命名された。本資料は昭和10年に王子製紙が抄造した 洋紙見本帳で、様々な見本紙とともに「国誉帳簿紙」が綴られている。



洋式帳簿の洋紙を編綴・製本する際に れていた手綴台。台の上では見返しの や表裏の表紙に革が貼り込まれた。帳 繁に書き込むため、使用にあたっては よさや耐久性が何よりも求められた。 中道工場で使用されていたと伝わる。

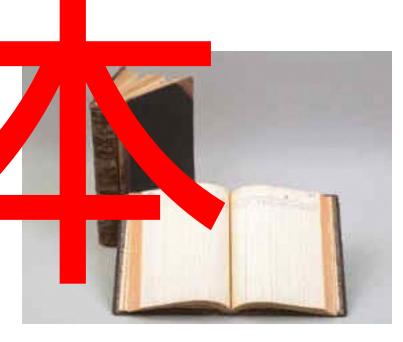


「手動プレス機」とも言う。帳簿を板の間に 挟み、上部のハンドルを回して締めることに よって圧力がかかり、折り目を落ち着かせた り、接着する際や「耳出し」(帳簿の背に丸 みをもたす方法)の作業にも使用された。本



### 17 ——洋式帳簿 昭和と

奥は大判500頁で手前は中判400頁。平 (表表 紙・裏表紙)には雲形のクロスが貼られてい るほか、背・平の出と4ヵ所の丸隅部分には 羊皮(ヤンピ)によるコーネル装が施されて いる。また、背の4ヵ所にはバンドが表され、 重厚感が漂う。ノンブルは奇数頁が左上隅、 偶数頁は右上隅に打たれている。





便箋見本帳は便箋の表紙が、仕切書見本帳は中紙、複写簿見本帳は表紙と中紙が それぞれ綴られている。便箋の表紙見本には、様々な意匠の「実用便箋」「婦人 用 おとづれ箋」や「高級 君が代便箋」「昭和便箋」の表紙などが綴られている。 また、仕切書見本帳の表紙裏面に印刷された「注文の栞」には、注文の際に番号 と品目を明記するよう記されている。



複写式電報頼信紙 (昭和9年頃)







複写簿(昭和 五年頃)

### 20 ――伝票類 昭和4年から10年頃

中道工場で製造された伝票類。黒田国光堂では仕切書や便 などを一般的に「雑貨」と呼び、これらの自家一貫製造は大 正11年(1922)に設立された猪飼野工場設立時に遡る。複写 式便箋のなかには登録商標が「国誉」ではなく「国勢」のも のがある。

文 住 切

送品複写簿(昭和7年頃)

南

複写式仕切書(昭和10年以前)



重伝 ・管され

### 21 ——書簡箋広告 昭和時代

黒田国光堂が初めて便箋を発売したのは大正3年(1914)から5年頃と言われる。その後、大正9年頃より簡単な意匠の表紙を付けた便箋を販売したが、図案の意匠に行き詰った昭和7年頃、色紙付きの「書簡箋」を発売した。表紙は極めて簡単だが、代わりに当時の一流画家の作品を印刷した色紙を挿入した「色紙付書簡箋」は、業界の注目を浴び、コクヨ便箋の知名度向上に大きく貢献した。



製品を卸していた。本資料は、黒田国

用に配付されたもので、使用せ

ていた。

### テル・和時代

「3 K便 の梱包紙に貼り付けられていたレッテル。 便箋の下 模が小さかった昭和7年(1932)、黒田国光 堂は良! 「な便箋を消費者に提供するため、当時新鋭 の設備。 「を備えた樺太工業株式会社真岡工場に便箋 紙として優れた「3 K便箋紙」の別抄造を依頼した。本資 料は「樺太工業」の文字上に「王子製紙」の印があるこ とから、昭和8年以降のものと考えられる。



書翰箋(昭和10年頃)



書翰箋(昭和6年頃)



意匠便箋 おとづれ箋 (昭和10年頃)

### 24 — 書翰箋と意匠便箋 昭和6年から10年頃

黒田国光堂は便箋の名称に本来の使用目的を表す「書翰箋」 (正100枚) を採用した。また、書翰箋より小さなサイズで表 紙に手毬や糸巻などの図柄を採用した婦人用の便箋「おとづ れ箋」(正50枚、正70枚) も製造販売した。



25 — 色紙付書翰箋と色紙 昭和時代

昭和7年(1932)頃より製造。当時の一流日本画家たちの 傑作が印刷された色紙付書翰箋の発売は、一部の収集家が 独占していた名画を広く大衆に紹介するという社会的意義 もあった。



色紙付書翰箋 伊東深水《筧》



色紙 鏑木清方《憩ひ》



### 26 — コクヨ商店株券 昭和9年(1934)発行 右:50株券 左:10株券



### 27 — 新工場新築記念栞 昭和11年頃

新築工事の概要や図面、工場内のスナップ写真などが掲載されている。写真のなかには新社屋に設けられた製品陳列室や談話室などのほか、第3号館2階にあった国光塾の前身「私立黒田国光堂青年学校」の講堂や「私立青年学校黒田国光堂実践女学校」の女子裁縫室、作法室なども見える。



### 28 — 新社屋·工場俯瞰図

昭和11年(1936)、従前より点在していた店舗と工場を統合し、現在のコ クヨ本社所在地に新社屋(旧本社)と工場(旧本社工場)が新設された。 リトグラフの中央には新社屋と洋式帳簿や複写簿、便箋の各製本部の建 物などのほか、奥には印刷工場と材料倉庫を描く。また、山並みの手前 には、大阪電気鉄道(現近畿日本鉄道)の高架橋が描かれている。





### 国光塾看板 30-昭和12年頃

昭和12年(1937)、日中戦争の影響のもと、軍民転換により人材の確保や労働者の補充が困難になっ たことから、黒田国光堂は自社内で従業員教育や人材育成を行う社内教育施設「国光塾」を設立した。 本看板は工場に隣接して建てられた木造 200





洋式帳簿 ⊿和12年から15年頃

右奥:昭和15年頃 手前 014年頃 左奥:昭和12年頃

**戊時体制化が図られ、軍需中心による経済の統** 昭和12年(1937)の盧溝橋事件あたりから国民生 ♪は羊皮ではなくクロスによるコーネル装が主 制化が始まる。この頃より帳簿の背や平の出、丸 流になり、背のバンドは模様のみで上端に製品番号が記される。また、見返しの一部には「報国帳簿」 と印刷され、戦時体制へと移行しつつある世の中の有り様を示している。余談ではあるが、戦前・戦 後の物資不足の際、黒田は洋式帳簿の表紙に使用されていたクロスでワイシャツやブラウスを仕立て させ、従業員に支給したという心温まるエピソードが今日に伝わる。



便箋「銀翼」(昭和16年頃)

# 图都

ンド便箋「報国」(昭和16年頃)



便箋「報国」(昭和15年頃)

### 33 — 便箋 昭和15・16年頃

太平洋戦争開戦前後に製造販売された便箋 で記される。商品名には「報国」「銀翼」と が採用されている。写真中央はボンド紙( の便箋で、表紙には懸賞で入選した図案が 票は「コクヨ」と右書き た戦時下ならではの名称



34——『国誉』創刊号 昭和14年 分発刊



表紙

「印刷の話」などが収

する紙製品業者のあり



黒田国光堂が製造販売して、最高の小売値段表。 製品は、洋式帳簿や和式、しめ、バインダー、リーなど24種類の紙製品名と製品番号、枚数、価格が記されている。

### 36 — 西部コクヨ商店株券 昭和15

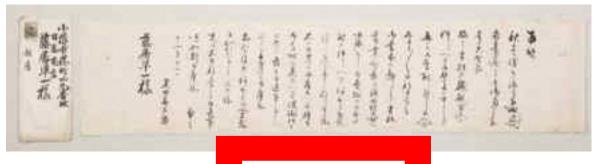
昭和15年、紙製品の生産量が減少するなか カーリー 地 や九州地方および台湾方面への販売機 ファート 内 「株式会社西部コクヨ商店」が設立され

### 37——国營印刷紙工株券 康徳10年(194

黒田国光堂は日本国内における原材料不足に加え、満州国における紙製品の需要が増加したため、現地で製造を行う。昭和16年(1941)12月に現地の印刷会社を買収して操業を始め、翌年には社名を「満州国誉印刷紙工株式会社」に変更した。同社は終戦の年に放棄され、翌年、現地に赴いていた社員全員が日本に引き揚げたことで終止符が打たれた。







と共に 御高配 右の次 致し来 配 の 件 出張い 営業部 十一月十一日 再三卸高配に預り戻事 秋色深き頃と相成候処拝啓 藤居準一様 追如斯御座候 件につき御繁多の中を 扨て当社の機械買入の 奉大賀候 貴台益々御清適之段 先は右御礼旁々御返事 御返事 御座候 き何か 御貴殿 につき 浜田鉄 黒田善太郎 匆々 仕種 候決 厚へ る々

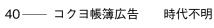
### 38——黒田善太月

終戦直後に黒田善太郎が北海道 市日藤商店 コクヨ北海道販売株式会社) の藤 居準一に宛てた書簡。当時、 商会はオフ 、印刷機を東京の **四**鉄工所 (浜田 精機) に発注したが、後日 国光堂からも があったことをタ それらを譲っ たとされる。本資料し とに対する礼状。 よは大手の印刷 も新しい印刷 機を入手する ったが、幸運にも から10台購入す ことは、戦後の黒田国光 ることがで 来事として今に伝 えられている。



### 39 — ノートブック 昭和 24年頃

黒田国光堂のノート製造の歴史は、昭和16年(1941)にジャワ島(現 インドネシア共和国中西部)で販売した「青表紙ノート」(ブランド名:カッチャマタ)に遡る。その後、昭和22年(1947)12月に黒田国光堂は教育ノート指定生産工場となり、国内向けのノート生産を開始する。本資料はそのなかで最も遡る製品。



帳簿の販売促進用広告 (ポスター)。昭和25年 (1950)、前年のシャウブ勧告に基づき、「青色申

告制度」が導入された。青色申告に え付けが不可欠であったことから# ダーなどの需要が増大した。

天部のマーブ



帳簿の背や平の出には黒皮、丸隅はクロスによるコーネル装が主流となり、外観は黒一代に統一される。



意匠便箋「歌舞伎」

### 43 — ( 昭和24年頃

どの便箋の表紙も薄く、意匠は単純で印刷の精度も低い。昭和24年(1949)、一部の紙を除き、紙の統制が解除されたが、原材料不足もあってか中紙の紙質も粗悪である。

42



### 45——専門代理店看板(伊藤商店) 昭和25年頃

伊藤商店(東京)は、コクヨ紙製品のみを専門的に 供給する「コクヨ専門代理店」第1号と 25年(1950)に誕生した。昭和30年、専 12社に増えるが、各社の根底には黒田善 姿勢や品質へのこだわりに対する共感や た。



# 46 — 専門代理店看板(新潟コクヨ商店) 昭和27年頃

新潟コクヨ商店の母店である宝屋の株式会社田村商店は、明治末期 大具・紙製品を商品として取り扱っていた。田村商店と黒田国光堂の取引が始まったのは、戦後間もない昭和21年(1946)頃で、昭和26年には同商店内にコクヨ部が設置され、翌年にはこれを分離独立させて新潟コクヨ商店が設立された。本資料は、この時に製作された看板と思われる。



### 47 — 大阪コクヨ商事株券

「コクヨ専門代理店」の誕生は、その紙製品即向屋の円板を促すことに繋がった。その代表的な事例として、昭和2年に設立された「大阪コクヨ商事株式会社」が挙げられる同社は、在阪卸売業者5社のコクヨ部と黒田国光堂の共同投資により設立され、これにより取引販売店1,600店に及ぶ画り的なコクヨ専門代理店が誕生した。





### 51 — 特約店看板 昭和時代

特約店とはコクヨ専門代理店から購入したコクヨ紙製品の小売を行う業者のこと。右は 山形県鶴岡市の山村帳簿店(現株式会社山村)、左は長野県の和泉屋紙店の特約店看板。





表面

平版工場・バインダー工場・複写工場・帳簿工場・ 場内の写真のほか、黒田善太郎の経営信条や創業50 よみが掲載 いる。



### 53 — 配送用木箱 年代不明

長野県小諸市山崎屋文具店旧蔵の製品配送用木箱。 表面中央にはコクヨ商標と「大阪/黒田国光堂」、左右には「コクヨ」「複写簿」、側面には「上田市/ 九二商店様」と見える。配送用木箱はダンボール包 装に変わる昭和29年頃まで使用されていた。



55——便箋 昭和30年·31年頃 右:昭和30年頃 左:昭和31年頃

右は意匠便箋「二重唱」。左は当用漢字表やペン習字の文 例などの付録が付いた便箋「文苑」。

### 54 — 洋式帳簿 昭和29年頃

帳簿の背や平の出、丸隅部分は黒皮によるコーネル装が主流となり、表表紙・裏表紙には雲形の黒紙が貼られている。



# 第 紙製品: 場の今市 ーコクヨエ業滋 のモノづくり ー



コクヨグ の主力工 あるコク ヨエ業済 、年間1億 上を販売 する ペスノートの を支える く級」のノート: である ♂8年の設立以来コ の紙製品製造に携わり、『貝つ身にな って作りましょう』『商品を通じて世 の中の役に立つ』『良品廉価』という コクヨグループの顧客満足を第一とし た企業理念に基づき、日々の生産活動 の中で絶え間ない改善・改良を行って いる。

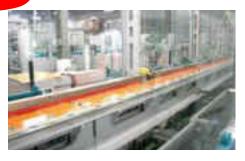
主な生産項目は無絶器じノート、リングノート、複写伝ルーズリーフ、 PPC用紙など。



### 愛荘の地で

愛荘町立歴史文化博物館よりおよそ1キロメートル圏内に位置し、国内物流のアクセス中心拠点といえる滋賀で、コクヨ創立110年以上の歴史を継承し、日々モノづくりや物流業務を行っている。





### 或のために出来ること

枯れヨシを刈ることで新芽の成長を助け、ヨシ群落の活性化につながることから、ヨシの新たな活用に取り組み、環境意識を広く普及させることを目的に2007年にびわ湖・淀川水系のヨシを使用した環境配慮のオリジナルブランド「ReEDEN(リエデン)」の開発・製造・販売を開始。美しいヨシ群落の風景を後世に受け継ぎ、多様性に富んだ琵琶湖の自然環境をいくために、活動を継続している。



地域一体となった活動に発展・持続するため ヨエ業滋賀が事 湖を守るネットワーク」を設立し、滋賀 ゆや わっていくことを提案している。



こして「ヨシでびぇ

わっていくことを提案している。 作る 目 lo 活用の 刈る サイケル 使 う

エデンに還そう エデンに帰ろ。 ReEDEN(リエデン)は reed/ヨシ、re/かえる、 eden/楽園で「ヨシで琵 琶湖を楽園に戻そう」と いう願いを込めた名前。

REEDEN

### 買う身になって作る

工場構内や構内用トラックの荷台 などに、この言葉が掲げられてい る。「面倒で厄介なこと」でも、買 う身になって日々の生産を行う。 この理念がコクヨのモノづくりの 根底にある。

### 寸分のズレも許されない

表と裏の罫線が1ミリでもずれたら 規格外になるのがコクヨ基準。ぴっ たり合うまで、何度も機械を調整す る。それは、人が行う「技」とユー ヨ品質への「責任」の表れである

Camp

### いろんな顔のキャンパス

1975年の「キャンパスノート」 発売から機能やデザインが更新さ れ、現在は5代目。カラフルな限定 柄デザインや、シックな大人キャン パスノートなど、幅広い年齢層に向 けた様々なデザインを展開している。



### 新素材への挑戦

柔らかい樹脂製リングを採用した 「ソフトリング®ノート」は、リング ノートでありながら、筆記時にリン グが手に当たっても気になりにくく、 ページの端まで記入しやすい。時代 に合わせて、素材も、それに対応す る生産技術も日々進化している。



### 紙1枚もばらけない製本強度

キャンパスノートの中紙 1 枚にペットボトル 1 0 本分 (20キログラム/おおよそ自転車1台分)を吊すこと ができるほどに、紙1枚1枚がはがれにくく、長く使 える品質である。



### 使い手の気持? ₹り添う

のカプ <mark>か有く宠巴する。夫際に</mark>手に取 ビルインキ や服が汚れそうな気分にさせ っても色は ることか るための消色が行われてい られた」結果である。



### サイズ展開はフルスペック

コクヨ工業滋賀のコピー用紙 (KPS用紙) は最小A5 サイズから最大A2サイズまで6サイズ展開で生産し ている。需要の少ないサイズでも取り揃えるのが顧客 目線のモノ作りと言える。



省エネルギーに帰り、型社会へ

印刷の過程で出た廃液は薬剤を注入後、不純物を沈殿させ 上澄みを排出し、純粋な水になるまで分離させる。分離さ れたインクは乾燥して固形物にした後、サーマルリサイク ルに利用する。また、断裁時に出る紙の端材は機械から吸 い上げられ、工場の天井にある管を通り、一箇所に集めら れる。集められた紙は圧縮され、約80キログラムの塊と して回収され、新しい紙へと生まれ変わる。

### その数、1 億を超える

Campus

Campus

日本を代表する文具「キャンパス ノート」。その販売数量は年間で 1億冊以上になる。積み重ねると 富士山の100倍近い高さに相当 する。





No.08

### No.04

### 戦国メッセージカード

滋賀は戦国武将ゆかりの地。ヨシの風合いが残る原紙に「武将」には表情、「城」には守りたい約束、「のぼり」には宣言文などを書いてシーンに合わせて活用できるユニークなカード。

### No.08\*\*

### びわこマスキングテープ

ニゴロブナやビワマスなどの琵琶湖固有の魚と、カヌーや釣りなどの琵琶湖周りのレジャーをデザインしたマスキングテープ。 湖畔で黄昏れるのも琵琶湖あるある。

### No.03\*

### びわこテート

約1 人ケールの琵琶湖 が クラ ま の滋賀 や、お天気マークなど、手帳や 旅日記にも活用できるアイコン がある。

### No.07

### ヨシノート

2007 年の ReEDEN 発足から 販売しているベーシックなノート。中紙はヨシコピー用紙と同 じ原紙を使用することで、環境 対応商品にありがちな高コスト を抑えている。

### No.02

### ヨシコピー わ湖

### No.06\*

### びわこクリップ

琵琶湖の形をしたゼムクリップ。 留める部分は魚の形のこだわり のデザインで、留めた時にも表 も裏も楽しめる。ビワコオオナ マズなどの5柄のヨシメッセー ジカードも付いている。

### No.01

### ヨシ筆ペン

天然のヨシから一本ずつ丁寧に 手作りされた筆はこびが滑らか な書き味のよい筆ペン。自然が 織りなす美しいヨシの形をその ままに、世界にひとつだけのペ ンに仕上げている。

### No.05

### ReEDEN PREMIUM Shiga

傾けると光の反射で、信楽焼た ぬきやカイツブリ、ふなずしな ど滋賀県の特産物やレジャーな どが浮かび上がる表紙。中紙は ミシン目で切り取ると便箋にも なる。

※No.03、06、08:本体ではなく、付属のカードやパッケージにヨシを使用している。

特集1 コクヨの創始者とキャンパスノート(エントランスロビー展示)

13214 .			· · · · — /24·3·/			
列品番号	資料名	員数	時代	備考		
1	無線綴じノート	1	昭和34年(1959)	ノ-95A		
2	フィラーノート	2	昭和35年(1960)	ノー712 <b>・</b> ノー843		
3	意匠ノート	2	昭和43年(1968)	ス-250・ス-253		
4	初代キャンパスノート	2	昭和50年(1975)	ノーC4A・ノー6B		
5	2代目キャンパスノート		昭和58年(1983)	/-3A•/-3B		
6	3代目キャンパスノート		平成3年(1991)	/-3A-F1•/-4B		
7	4代目キャンパスノート 2		平成12年(2000)	/-5A•/-5B		
8	5代目キャンパスノート		TT-1225 (2011)			
9	パラクルノ			N−LB•∕−R108AN−P		
10	スリムB5サイズ	2	平成17年(2005)	✓ N-G• ✓ -3PAN-M		
11	コクヨ関連出版物	16	昭和29年(1954)他			

### 第2部(特集2) 紙製品工場の今 ーコク

	集2) 紙製品工場の今 -コク				
列品番号	展示品名称	員数	発売年	備考	
1	キャンパスノート	7	平成20年(2008)他	横 ット入り罫線・ウィークリー罫 貼付用など	
2	中紙原紙				
3	中身罫線印版	1	_		
4	背クロス	2	_		
5	脱水ケーキ	1			
6	限定キャンパスノート			カラー	
7	大人キャンパスノート	2	成27年(20	方眼罫・ドット入り罫線	
8	KOKUYO ME ノートブック	7	和元年(20		
9	KOKUYO ME ソフトリングノート		令和元年(20		
10	ソフトリングノート		平成27年(20	ドット入りート・カットオフメモなど	
11	キャンパスノート 背固め強度		_		
12	ルーズリーフ 表裏印	1	_		
13	NC複写簿 請求書 消 一見本	2	_	<del>、                                    </del>	
14	KPSコピー用紙	6	平成14年(2002)他	A5·B5·A4·B4·A3·A2	
15	ノートブック 〈ReEDEN PREMIUM Shiga〉	3	平成30年(2018)		
16	ビワコミック	3	平成29年(2017)		
17	小役立ちノート	6	平成31年(2019)	100ヨシノート・がんばりノート MONTH YEAR LIFEノート	
18	ノートブック〈ReEDEN PREMIUM〉	8	平成28年(2016)他	A6•A5	
19	びわこクリップ	2	平成2014)		
20	マスキングテープ	6	平成2 2014)他	びわこマスキングテープ・しが旅マスキングテープ とび太くんマスキングテープ	
21	ふせん	8	平成2 2015)他	びわこふせん・忍者ふせん(忍び刀)(手裏剣) とび大くんふせん	
22	ヨシメッセージカード			-ジカード・戦国メッセージカード - マージカード	
23	テンプレート	6		びわこテンプレート・戦国テンプレート とび太くんテンプレート	
24	びわコースター	2	成3 201 产成2 2016)		
25	歌かるた箋		<mark>≠成2 2016)</mark>		
26	ノートブック		平成2 2014) 他	•A5・セミB5	
	⟨ReEDEN colours SHIGA⟩			7.5 2.75	
27	ロクブンノイチ野帳	2	平成2		
28	ヨシコピー用紙びわ湖	1	平成2 2012)		
29	とび太くんヨシノート	2	平成2 2015)他		
30	滋賀のお魚ヨシノート				
31	ヨシ紙	- 3	TV (#2)	A4 - CO	
32	びわて一筆箋	2	平成3 (018)	7 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
33	ヨシ名刺	2	平成1 2007)他	ヨシパルプ30%・ヨシパルプ100%	
34	ヨシ葉書   ヨシノート	2	平成1 2007)	淡・濃   A5・セミB5	
		1	平成20年(2008)	AJTE C DO	
36	ヨシ特撰手紙セット   ヨシ筆ペン	1	平成20年(2008)		
38	ヨシの束	1	一		
39	ヨシの宋   ヨシパルプ	2	_		
	-  // ///		_		

※第1部の資料はコクヨ株式会社、第2部のものは株式会社コクヨ工業滋賀所蔵。 ※列品番号は展示順序と必ずしも一致しない。

## 令和2年度秋季特別展「紙製品への思い ─国誉の礎とコクヨの現在─」列品目録

第1部 コクヨの礎

会期:令和2年10月29日(木)~12月13日(日)

1   田田光堂と旧藩    79,0×637   79,		コクヨの碇			10月29日(木)~12月13日(日)
田田平太郎付像	列品番号	資料名	員数	時代	法量(cm)
2 無田回火電会社を検         1         88101年頃         75.8×21.1           3 無田田火電台域         1         8840年頃         72.2×84.1           4 商標有板         2         55.0         68470×67.2           5 (参考)太福橋         2         7.0         69.0         98.8×40.7           7 (参考)商店の帳場(網帯・銀・筆・板         1         大正末力         20月間         23.3×16.2枚           8 2 無 間を破棄と代報器         2         大正末力         20月間         23.3×16.2枚           10	第1章	黒田国光堂と「国誉」			
3 無田田原生社館         1         数409年度         7322.841           4 簡素経過         1         数409年度         24/02/673           5 (參考)未福信         2         別品38年(1905)         312×12.0m           6 信義経過         1         大正9年(1920)修構         98.8×4677           7 (参考)連結の帳場(報格・税・車・技         1         1         10.8×22.8           第2章 監督の繁末と機関品         1         10.6×37.9         2         大正末力         10期間         23.3×16.2m           11 コクラ自航の原司         1         1         10.0         2         2         10.0         2         2         2         10.0         2         2         10.0         2         2         2         10.0         2         2         2         10.0         2         2         2         2         2         10.0         2         <	1	黒田善太郎肖像	1	昭和32年(1957)制作	79.0×63.7
4 前標毒板 1 回線時代 2 9月389年(1995) 312×12/06 6 店舗看板 1 大正9年(1920)修繕 98.8×40.7 7 (参考)商店の指導(保籍・現・等・接 9.8 8×40.7 7 (参考)商店の指導(保籍・現・等・接 9.8 8×40.7 7 (参考)商店の指導(保籍・現・等・接 9.8 8×40.7 7 (参考)商店の指導(保籍・現・等・接 10.8×28.7 10.8×28.7 10.8×28.7 10.1 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.2 10.6×31.9 11 10.0 10.6×31.9 11 10.0 10.6×31.9 11 10.0 10.6×31.9 11 10.0 10.6×31.9 11 10.0 10.6×31.9 11 10.6×31.9 11 10.6×31.9 11 10.6×31.9 11 10.0 10.6×31.9 11 1	2	黒田国光堂会社看板	1	昭和11年頃	75.8×21.1
4	3	黒田国光堂社旗	1	昭和9年頃	732×.84.1
	4	商標看板	1		
6 店舗看板 1 大正9年(1920)修続 98.8×40.7 7 〈参考)商店の帰場(限格・限・単・振 8 異盤 10.8×28.7 10 衣炊料 10.8×28.7 10 衣炊料 10.6×33.7 11 コクコ地店の厚司 1 1 18419 平 文1064×47641 11 コクコ地店の厚司 1 1 18419 平 文1064×47641 12 出雲大社参拝招待会記念某 2 18419 年 55 17.2×283×64 15 手扇台 1 日和初明 福255×東月1848×高50-36 16 手機械 1 日和初明 福255×東月1848×高50-36 16 手機械 1 日和初明 福255×東月1848×高50-36 17 洋式成海 30.4×23.84 19 新型品の東京 27.4×23.84 19 新型品の東京 27.4×23.84 20 位票類 日和4年から10年頃 25.8×19.69 21 書輪変元音 3144年から10年頃 25.8×19.69 21 書輪変元音 3148年 2 1841年 7 1841年	5		2		
7 (参考)施店の帳場(開始・現・事・報	_		_		. –
### 108.82mm			<u>'</u>	八正 7 平 (1720) 191日	50.0 × 10.7
9 和式帳簿       2 大正末か       020期別       233×16.20m         第 2章 国営の策策と眺望品       166×37.9       166×37.9         11 コクヨ南氏の原司       1 昭和9年       120					100 × 20 7
10   交換性   16.6×279   1   18.419   1   16.6×279   1   1   2   2   1   1   2   2   1   1					
10   本放移		<u> </u>		人正木刀   川初期	23.3×10.2世
1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日					
12   出版大社参拝招待会記念栞					
13   知工能簿   2   209×15-20c   5)   17.2×28.9×6.4   1   昭和初邦   幅49.8×表行34.8×高5.0   17.2×28.9×6.4   1   昭和初邦   幅49.8×表行34.8×高5.0   16   手帳校   1   昭和時代   幅55.7×支行18.9×高2.97   18.9×高2.97   18.9×高2.97   18.9×高2.97   18.9×高2.97   18.9×高2.97   19.9×   18.9×   19.9×					
1			_		
1 日和初月   個498×奥行348×萬359	13	和式帳簿	0		20.9×15.3他
16   手機械   1   昭和時代   幅55.7×奥行18.9×高29.7   17   洋式帳簿   27.4×20.3他   27.4×20.3世   27.4×20.3±2.3×20.3   27.2×20.3×20.3×20.3×20.3   27.2×20.3×20.3×20.3×20.3×20.3×20.3×20.3×20	14	洋紙見本帳		<b>5</b> )	17.2×28.9×6.4
17   洋式帳簿   30.4×23.8他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3世   27.4×20.3±   27	15	手綴台	1	昭和初期	幅49.8×奥行34.8×高36.9
17   洋式帳簿   30.4×23.8他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3他   27.4×20.3世   27.4×20.3±   27	16	手機械	1	昭和時代	幅55.7×奥行18.9×高29.7
18   洋式帳簿	17	洋式帳簿			30.4×23.8他
19   紙製品見本帳   日和8年から10年頃   25.8×19.0世紀   20   伝票類   日和8年から10年頃   23.9×16.5世紀   21   音報養広告   日和時代   76.8×35.7   22   カルトン   日和時代   23.5×17.3世紀   24   音報後と変便便箋   4   4   23.5×17.3世紀   25.5×17.3世紀   26   27.3   28.5×17.3世紀   28   37.8   28   37.8   28   37.8   28   38   38   38   38   38   38   3					
20 伝票類   23.9×16.5mm   23.9×16.5mm   23.9×16.5mm   76.8×35.7   22 カルトン   23.1×15.6   23.1×15.6   23.1×15.6   23.1×15.6   24 書籍箋と庶便箋   4 月 23.5×17.3mm   23.1×15.6   25.5×16.7mm   23.1×15.6   25.5×16.7mm   23.1×15.6   25.5×16.7mm   23.1×15.6   25.5×16.7mm   25.5×16.7mm   23.1×15.6   25.5×16.7mm   25.5×16.7m				7118年から10年頃	
21					
22 カルトン   日和時代   径18.3×高3.3   3.8   保護紙のレッテル   23.1×15.6   23.1×15.6   24   書籍後と庶便箋   4   3.2   25.5×17.8   25.5×17.8   25.5×17.8   26   17.5×18.8   28.4   24.5×17.8   29.4   24.5×17.8   29.4   24.5×17.8   29.4   24.5×17.8   29.4   24.5×17.8   29.4   24.5×17.8   29.4   24.5×17.8   29.4   24.5×17.8   29.4   24.5×17.8   29.4   24.5×17.8   29.4   29		1 12 11 1			
23					
24       書輸箋と窓匠便箋       4       一項       23.5×17.3他         25       包紙付書輸資と色紙       7       昭和9年(1934)発行       22.5×17.8他         26       コクョ商店株券       2       昭和19年(1934)発行       22.3×28.3         27       新工場所蘭図       1       昭和11年頃       48.4×72.9         29       東京園營商店株券       1       昭和12年頃       48.4×72.9         30       園光塾看板       1       昭和12年頃       24.0×130.0         31       和式帳簿       3       昭和12年頃       24.0×130.0         32       洋式帳簿       4       昭和12年頃       24.0×130.0         32       洋式帳簿       4       昭和12年時       27.4×21.0他         32       洋式帳簿       4       昭和12年中頃       22.5×17.9他         34       『国營詢門局       2       25.7×19.0         35       紙製品小売値段表       3       昭和12年中頃       22.5×17.9他         36       西部19年前店は券       3       昭和15年(1940)発行       22.9×29.5         37       国営印刷紙工株券       3       田和15年(1940)発行       22.9×29.5         36       西部219年商店は券       1       1       22年頃       206×14.5他         40       コクヨ帳簿店       1       22年頃       206×14.5他       20.5×14.5他				首和时代 400年代	
25 色紙付書輸箋と色紙					
26         コクヨ商店株券         2         昭和19年(1934)発行         22.3×28.3           27         新工場所築記念栞         2         昭和11年頃         15.0×22.2           28         新社屋工場俯瞰図         1         昭和11年頃         48.4×72.9           29         東京国管商店株券         1         昭和12年頃         24.0×130.0           30         国光登看板         1         昭和12年頃         24.0×130.0           31         和式帳簿         3         昭和12年頃         23.4×17.0他           32         洋式帳簿         4         昭和12年から15年頃         27.4×21.0他           33         便箋         3         昭和12年から15年頃         22.5×17.9他           34         『国営訓別刊号         2         四和14年(1932)登刊         26.5×18.9           35         紙製品小売値段表         3         昭和15年(1940)発行         21.9×27.5         東徳10年(1943)発行         22.9×29.5           第4章         再建と紙製品品製造業の確立         3         1         12.2年頃         18.7×84.1         38.7×53.8           38         黒田善太郎書商 藤居準一宛         1         1         12.2年頃         20.6×14.5他           40         コクコ協療広告         1         時代         48.7×52.8         41.5         42.4         会者)便養棚         1         1.0×22年頃         20.6×14.5他         <					
27       新工場新築記念栞       2       昭和11年頃       15.0×22.2         28       新社屋・工場傍瞰図       1       昭和11年頃       48.4×72.9         29       東京国普商店株券       1       昭和20年(1945)発行       21.3×27.5         第3章       国誉紙製品受難小史       1       昭和12年頃       24.0×130.0         31       和式帳簿       3       昭和12年頃       23.4×17.0他         32       洋式帳簿       4       昭和12年から15年頃       27.4×21.0他         33       便箋       3       昭和15・16年頃       22.5×17.9他         34       『国營訓刊号       2       昭和14年(1939)発刊       26.5×18.9         35       紙製品小売値段表       3       昭和15・16年頃       22.9×29.5         36       西部コクョ商店株券       39.2×54.2       18.7×84.1         37       国営印刷紙工株券       東徳10年(1943)発行       22.9×29.5         第4章       再建と紙製品製造業の確立       1       1.22年頃       18.7×84.1         39       ノートブック       3       1.22年頃       18.7×84.1         39       ノートブック       3       1.22年頃       20.6×14.5他         40       コクョ帳療広告       1       1       38.7×53.8         41       洋式帳簿       3       昭和       26.4×20.6他         42       (参考)便箋棚					
28 新社屋・工場俯瞰図   1 昭和11年頃					
東京国普商店株券	27	新工場新築記念栞	2	昭和11年頃	15.0×22.2
第3章 国営紙製品受難小史       1       昭和12年頃       24.0×130.0         31 和式帳簿       3 昭和10年から13年頃       23.4×17.0他         32 洋式帳簿       4 昭和12年から15年頃       27.4×21.0他         33 便箋       3 昭和15・16年頃       22.5×17.9他         34 「国営詢刑号       2 昭和14年(1939)登刊       26.5×18.9         35 紙製品小売値段表       1 昭和15年(1940)発行       21.9×27.5         37 国営印刷紙工株券       1 昭和15年(1940)発行       22.9×29.5         第4章 再建と紙製品製造業の確立       1 1 22年頃       18.7×84.1         39 ノートブック       3 2・24年頃       20.6×14.5他         40 コクラ帳簿広告       1 時、38.7×53.8       3 昭和.       26.4×20.6他         42 (参考)便箋棚       1 時代本       幅55.6×奥行52.3×高42.4         43 便箋       3 昭和.       25.7×17.8他         44 色紙付書翰箋       1 時代本       幅55.6×奥行52.3×高42.4         43 便箋       3 昭和24年       25.7×17.8他         45 専門代理店看板(新潟コクヨ商店)       1 昭和27年(1952)       72.0×121.4         47 大阪コクヨ商事株券       1 昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         48 製品価格表と番号表       3 昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         48 製品価格表と番号表       3 昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         49 専門代理店看板(京ホコクヨ)       1 昭和30年頃       163.2×36.0         50 総括店看板(京ホカラヨ)       1 昭和30年頃       10×17.6 <td< td=""><td>28</td><td>新社屋•工場俯瞰図</td><td>1</td><td>昭和11年頃</td><td>48.4×72.9</td></td<>	28	新社屋•工場俯瞰図	1	昭和11年頃	48.4×72.9
30 国光塾看板	29	東京国誉商店株券	1	昭和20年(1945)発行	21.3×27.5
31 和式帳簿   23.4×17.0他  32 洋式帳簿   23.4×17.0他  32 洋式帳簿   4 昭和12年から15年頃   27.4×21.0他  33 便箋   3 昭和15·16年頃   22.5×17.9他  34 『国誉』創刊号   36.5×18.9   39.2×54.2   36 西部コクヨ商店株券   39.2×54.2   37 国營印刷紙工株券   5 昭和15年(1940)発行   21.9×27.5   37 国營印刷紙工株券   5 昭和15年(1940)発行   22.9×29.5   38 黒田善太郎書簡 藤居準一宛   1 122年頃   18.7×84.1   39.2×54.2   20.6×14.5他  40 コクヨ帳簿広告   1 1 22年頃   20.6×14.5他  41 洋式帳簿   3 87.×53.8   41 洋式帳簿   3 87.×53.8   41 持式帳簿   3 87.×53.8   41 持式帳簿   3 87.×53.8   41 持式帳簿   3 87.×53.8   42.4   43 便箋   3 87.4   44 色紙付書翰箋   5 87.4   45 専門代理店看板(伊藤商店)   1 87.27年頃   75.5×145.5   46 専門代理店看板(新潟コクヨ商店)   1 87.27年頃   72.0×121.4   47 大阪コクヨ商事株券   1 87.27年頃   72.0×121.4   48 製品価格表と番号表   3 87.27年頃   72.0×121.4   48 製品価格表と番号表   3 87.27年頃   72.0×121.4   49 専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)   1 87.28年頃   163.2×36.0   50 総括店看板(京都コクヨ)   1 87.30年頃   91.0×17.6   51 特約店看板   2 87.89年頃   73.8×52.6   53 配送用木箱   1 年代不明   幅77.5×奥行39.4×高41.4   54 洋式帳簿   5 87.29年頃   21.4×17.0他  21.4×17.0世  21.4×17	第3章	国誉紙製品受難小史			
31 和式帳簿   23.4×17.0他  32 洋式帳簿   23.4×17.0他  32 洋式帳簿   4 昭和12年から15年頃   27.4×21.0他  33 便箋   3 昭和15·16年頃   22.5×17.9他  34 『国誉』創刊号   36.5×18.9   39.2×54.2   36 西部コクヨ商店株券   39.2×54.2   37 国營印刷紙工株券   5 昭和15年(1940)発行   21.9×27.5   37 国營印刷紙工株券   5 昭和15年(1940)発行   22.9×29.5   38 黒田善太郎書簡 藤居準一宛   1 122年頃   18.7×84.1   39.2×54.2   20.6×14.5他  40 コクヨ帳簿広告   1 1 22年頃   20.6×14.5他  41 洋式帳簿   3 87.×53.8   41 洋式帳簿   3 87.×53.8   41 持式帳簿   3 87.×53.8   41 持式帳簿   3 87.×53.8   41 持式帳簿   3 87.×53.8   42.4   43 便箋   3 87.4   44 色紙付書翰箋   5 87.4   45 専門代理店看板(伊藤商店)   1 87.27年頃   75.5×145.5   46 専門代理店看板(新潟コクヨ商店)   1 87.27年頃   72.0×121.4   47 大阪コクヨ商事株券   1 87.27年頃   72.0×121.4   48 製品価格表と番号表   3 87.27年頃   72.0×121.4   48 製品価格表と番号表   3 87.27年頃   72.0×121.4   49 専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)   1 87.28年頃   163.2×36.0   50 総括店看板(京都コクヨ)   1 87.30年頃   91.0×17.6   51 特約店看板   2 87.89年頃   73.8×52.6   53 配送用木箱   1 年代不明   幅77.5×奥行39.4×高41.4   54 洋式帳簿   5 87.29年頃   21.4×17.0他  21.4×17.0世  21.4×17	30	国光塾看板	1	昭和12年頃	24.0×130.0
32   洋式帳簿   4   昭和12年から15年頃   27.4×21.0他   33   便箋   3   昭和15・16年頃   22.5×17.9他   34   『国誉』創刊号   26.5×18.9   39.2×54.2   36   西部コクヨ商店株券   39.2×54.2   37   国營印刷紙工株券   東徳10年(1943)発行   22.9×29.5   37   国營印刷紙工株券   38   黒田善太郎書簡 藤居準一宛   1   12.22年頃   18.7×84.1   39   ノートブック   3   7·24年頃   20.6×14.5他   40   コクヨ帳簿広告   1   38.7×53.8   41   洋式帳簿   3   昭和24年頃   26.4×20.6他   42   〈参考〉便箋棚   1   時代不   幅55.6×奥行52.3×高42.4   43   便箋   3   昭和24年頃   23.0×17.9   45   専門代理店看板(新潟コクヨ商店)   1   昭和27年頃   75.5×145.5   46   専門代理店看板(新潟コクヨ商店)   1   昭和27年頃   72.0×121.4   47   大阪コクヨ商事株券   1   昭和27年頃   72.0×121.4   48   製品価格表と番号表   3   昭和27年(1952)発行   72.0×121.4   48   製品価格表と番号表   3   昭和27年(1952) 第 (1952)   8.8×12.3   49   専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)   1   昭和30年頃   163.2×36.0   50   総括店看板(京都コクヨ)   1   昭和30年頃   91.0×17.6   51   特約店看板   2   昭和19年頃   37.8×52.6   52   会社案内   1   昭和29年頃   37.8×52.6   53   配送用木箱   1   年代不明   幅77.5×奥行39.4×高41.4   54   洋式帳簿   5   昭和29年頃   21.4×17.0他   21.4×17.0世	31		3	昭和10年から13年頃	23.4×17.0他
33   便箋   3   昭和15・16年頃   22.5×17.9他   34   『国誉』創刊号   2   昭和14年(1939)発刊   26.5×18.9   39.2×54.2   36   西部コクヨ商店株券   昭和15年(1940)発行   21.9×27.5   康徳10年(1943)発行   22.9×29.5   37.2×64.2   38   黒田善太郎書簡 藤居準一宛   1   122年頃   18.7×84.1   39   ノートブック   3   1.24年頃   20.6×14.5他   40   コクヨ帳簿広告   1   時代不   幅55.6×奥行52.3×高42.4   3   26.4×20.6他   42   《参考〉便箋棚   1   時代不   幅55.6×奥行52.3×高42.4   43   便箋   1   時代不   幅25.6×奥行52.3×高42.4   3   昭和24年   3   昭和24年   3   昭和24年   3   日本日本学園   75.5×145.5   46   専門代理店看板(伊藤商店)   1   昭和27年頃   75.5×145.5   48   製品価格表と番号表   1   昭和27年頃   72.0×121.4   47   大阪コクヨ商事株券   1   昭和27年頃   72.0×121.4   48   製品価格表と番号表   3   昭和27年頃   72.0×121.4   49   専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)   1   昭和27年頃   163.2×36.0   50   総括店看板(京都コクヨ)   1   昭和30年頃   163.2×36.0   50   総括店看板(京都コクヨ)   1   昭和30年頃   163.2×36.0   51   特約店看板   2   昭和時代   58.8×160.0他   52   会社案内   1   昭和29年頃   37.8×52.6   53   配送用木箱   1   年代不明   幅77.5×奥行39.4×高41.4   54   洋式帳簿   5   昭和29年頃   21.4×17.0他   21.	32		4		
34       『国誉』創刊号       2       昭和14年(1939)発刊       26.5×18.9         35       紙製品小売値段表       39.2×54.2       39.2×54.2         36       西部コクヨ商店株券       東徳10年(1940)発行       21.9×27.5         第4章 再建と紙製品製造業の確立       1       122年頃       18.7×84.1         39       ノートブック       3       2・24年頃       20.6×14.5他         40       コクヨ帳簿広告       1       時、1       38.7×53.8         41       洋式帳簿       3       昭和       26.4×20.6他         42       〈参考〉便箋棚       1       時代本       幅55.6×奥行52.3×高42.4         43       便箋       3       昭和24年は、25.7×17.8他       23.0×17.9         44       色紙付書翰箋       3       昭和24年は、25.7×17.8他       20.0×12.4         44       中代代理店看板(伊藤商店)       1       昭和27年頃       75.5×145.5         46       専門代理店看板(新潟コクヨ商店)       1       昭和27年頃       72.0×121.4         47       大阪コクヨ商事株券       1       昭和27年(1952) 第16       8.8×12.3         49       専門代理店看板(金沢コクヨ蘇長       1       昭和27年(1952)       8.8×12.3         50       総括店看板(京都コクヨ)       1       昭和38年頃       163.2×36.0         50       総括店看板(京都コクヨ)       1       昭和38年頃       163.2×36.0		111111111111111111111111111111111111111	_		
35					
四部コクヨ商店株券   田和15年 (1940)発行   21.9×27.5   37   国誉印刷紙工株券   東徳10年 (1943)発行   22.9×29.5   第4章 再建と紙製品製造業の確立   1 122年頃   18.7×84.1   39				-	
37 国誉印刷紙工株券   康徳10年(1943)発行   22.9×29.5   第4章 再建と紙製品製造業の確立   1 日22年頃   18.7×84.1   39 ノートブック   3 日2・24年頃   20.6×14.5他   40 コクヨ帳簿広告   1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日				-	
第4章 再建と紙製品製造業の確立       1 122年頃       18.7×84.1         39 ノートブック       3 2・24年頃       20.6×14.5他         40 コクヨ帳簿広告       1 時、 38.7×53.8         41 洋式帳簿       3 昭和、 26.4×20.6他         42 〈参考〉便箋棚       1 時代不、 幅55.6×奥行52.3×高42.4         43 便箋       23.0×17.9         44 色紙付書翰箋       23.0×17.9         45 専門代理店看板(伊藤商店)       1 昭和27年頃       75.5×145.5         46 専門代理店看板(新潟コクヨ商店)       1 昭和27年頃       72.0×121.4         47 大阪コクヨ商事株券       1 昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         48 製品価格表と番号表       3 昭和27年(1952)       8.8×12.3         49 専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1 昭和30年頃       91.0×17.6         50 総括店看板(京都コクヨ)       1 昭和30年頃       91.0×17.6         51 特約店看板       2 昭和時代       58.8×160.0他         52 会社案内       1 昭和29年頃       37.8×52.6         53 配送用木箱       1 年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54 洋式帳簿       5 昭和29年頃       21.4×17.0他		<del> </del>	`	<u> </u>	
38       黒田善太郎書簡 藤居準一宛       1 日22年頃       18.7×84.1         39       ノートブック       3 マ・24年頃       20.6×14.5他         40       コクヨ帳簿広告       1 時、 3 8.7×53.8       41 洋式帳簿       3 昭和 26.4×20.6他         42       〈参考〉便箋棚       1 時代不 幅55.6×奥行52.3×高42.4       43 便箋       25.7×17.8他         44       色紙付書翰箋       頁 75.5×145.5       46 専門代理店看板(伊藤商店)       1 昭和27年頃 72.0×121.4         47       大阪コクヨ商事株券       1 昭和27年頃 72.0×121.4       72.0×121.4         48       製品価格表と番号表       3 昭和27年(1952)発行 72.0×121.4         49       専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1 昭和28年頃 163.2×36.0         50       総括店看板(京都コクヨ)       1 昭和30年頃 91.0×17.6         51       特約店看板       2 昭和時代 58.8×160.0他         52       会社案内       1 昭和29年頃 37.8×52.6         53       配送用木箱       1 年代不明 幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5 昭和29年頃 21.4×17.0他			<u> </u>	隶偲10年(1943)発行	22.9×29.5
39       ノートブック       3       2・24年頃       20.6×14.5他         40       コクヨ帳簿広告       1       B       38.7×53.8         41       洋式帳簿       3       昭和.       26.4×20.6他         42       〈参考〉便箋棚       1       時代不.       幅55.6×奥行52.3×高42.4         43       便箋       3       昭和24年6.       25.7×17.8他         44       色紙付書翰箋       23.0×17.9       75.5×145.5         45       専門代理店看板(伊藤商店)       1       昭和27年頃       72.0×121.4         47       大阪コクヨ商事株券       1       昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         48       製品価格表と番号表       3       昭和27年(1952)       8.8×12.3         49       専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1       昭和28年頃       163.2×36.0         50       総括店看板(京都コクヨ)       1       昭和30年頃       91.0×17.6         51       特約店看板       2       昭和時代       58.8×160.0他         52       会社案内       1       昭和29年頃       37.8×52.6         53       配送用木箱       1       年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5       昭和29年頃       21.4×17.0他				722/T-LT	***
40       コクヨ帳簿広告       1       B       38.7×53.8         41       洋式帳簿       3       昭和       26.4×20.6他         42       〈参考〉便箋棚       1       時代不       幅55.6×奥行52.3×高42.4         43       便箋       25.7×17.8他       25.7×17.8他       23.0×17.9         45       専門代理店看板(伊藤商店)       1       昭和27年頃       75.5×145.5         46       専門代理店看板(新潟コクヨ商店)       1       昭和27年頃       72.0×121.4         47       大阪コクヨ商事株券       1       昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         48       製品価格表と番号表       3       昭和27年(1952)       8.8×12.3         49       専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1       昭和28年頃       163.2×36.0         50       総括店看板(京都コクヨ)       1       昭和30年頃       91.0×17.6         51       特約店看板       2       昭和時代       58.8×160.0他         52       会社案内       1       昭和29年頃       37.8×52.6         53       配送用木箱       1       年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5       昭和29年頃       21.4×17.0他				1 1 1	
41       洋式帳簿       3       昭和       26.4×20.6他         42       〈参考〉便箋棚       1       時代不       幅55.6×奥行52.3×高42.4         43       便箋       25.7×17.8他         44       色紙付書翰箋       23.0×17.9         45       専門代理店看板(伊藤商店)       1       昭和23年頃       75.5×145.5         46       専門代理店看板(新潟コクヨ商店)       1       昭和27年頃       72.0×121.4         48       製品価格表と番号表       1       昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         48       製品価格表と番号表       3       昭和27年(1952)       8.8×12.3         49       専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1       昭和28年頃       163.2×36.0         50       総括店看板(京都コクヨ)       1       昭和30年頃       91.0×17.6         51       特約店看板       2       昭和時代       58.8×160.0他         52       会社案内       1       昭和29年頃       37.8×52.6         53       配送用木箱       1       年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5       昭和29年頃       21.4×17.0他	-			1 71	
42 〈参考〉便箋棚       1 時代不。       幅55.6×奥行52.3×高42.4         43 便箋       25.7×17.8他         44 色紙付書翰箋       項       23.0×17.9         45 専門代理店看板(伊藤商店)       1 昭和27年頃       75.5×145.5         46 専門代理店看板(新潟コクヨ商店)       1 昭和27年頃       72.0×121.4         47 大阪コクヨ商事株券       1 昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         48 製品価格表と番号表       3 昭和27年(1952)       8.8×12.3         49 専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1 昭和28年頃       163.2×36.0         50 総括店看板(京都コクヨ)       1 昭和30年頃       91.0×17.6         51 特約店看板       2 昭和時代       58.8×160.0他         52 会社案内       1 昭和29年頃       37.8×52.6         53 配送用木箱       1 年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54 洋式帳簿       5 昭和29年頃       21.4×17.0他	-				38.7×53.8
43便箋3昭和24年625.7×17.8他44色紙付書翰箋23.0×17.945専門代理店看板(伊藤商店)1昭和25年頃75.5×145.546専門代理店看板(新潟コクヨ商店)1昭和27年頃72.0×121.447大阪コクヨ商事株券1昭和27年(1952)発行72.0×121.448製品価格表と番号表3昭和27年(1952)8.8×12.349専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)1昭和28年頃163.2×36.050総括店看板(京都コクヨ)1昭和30年頃91.0×17.651特約店看板2昭和時代58.8×160.0他52会社案内1昭和29年頃37.8×52.653配送用木箱1年代不明幅77.5×奥行39.4×高41.454洋式帳簿5昭和29年頃21.4×17.0他			3		26.4×20.6他
44色紙付書翰箋項23.0×17.945専門代理店看板(伊藤商店)1 昭和23年頃75.5×145.546専門代理店看板(新潟コクヨ商店)1 昭和27年頃72.0×121.447大阪コクヨ商事株券1 昭和27年(1952)発行72.0×121.448製品価格表と番号表3 昭和27年(1952)8.8×12.349専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)1 昭和28年頃163.2×36.050総括店看板(京都コクヨ)1 昭和30年頃91.0×17.651特約店看板2 昭和時代58.8×160.0他52会社案内1 昭和29年頃37.8×52.653配送用木箱1 年代不明幅77.5×奥行39.4×高41.454洋式帳簿5 昭和29年頃21.4×17.0他	42	〈参考〉便箋棚			幅55.6×奥行52.3×高42.4
45       専門代理店看板(伊藤商店)       1 昭和23年頃       75.5×145.5         46       専門代理店看板(新潟コクヨ商店)       1 昭和27年頃       72.0×121.4         47       大阪コクヨ商事株券       1 昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         48       製品価格表と番号表       3 昭和27年(1952)       8.8×12.3         49       専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1 昭和28年頃       163.2×36.0         50       総括店看板(京都コクヨ)       1 昭和30年頃       91.0×17.6         51       特約店看板       2 昭和時代       58.8×160.0他         52       会社案内       1 昭和29年頃       37.8×52.6         53       配送用木箱       1 年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5 昭和29年頃       21.4×17.0他	43	便箋	3	昭和24年	25.7×17.8他
45       専門代理店看板(伊藤商店)       1 昭和23年頃       75.5×145.5         46       専門代理店看板(新潟コクヨ商店)       1 昭和27年頃       72.0×121.4         47       大阪コクヨ商事株券       1 昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         48       製品価格表と番号表       3 昭和27年(1952)       8.8×12.3         49       専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1 昭和28年頃       163.2×36.0         50       総括店看板(京都コクヨ)       1 昭和30年頃       91.0×17.6         51       特約店看板       2 昭和時代       58.8×160.0他         52       会社案内       1 昭和29年頃       37.8×52.6         53       配送用木箱       1 年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5 昭和29年頃       21.4×17.0他	44	色紙付書翰箋			23.0×17.9
46専門代理店看板(新潟コクヨ商店)1昭和27年頃72.0×121.447大阪コクヨ商事株券1昭和27年(1952)発行72.0×121.448製品価格表と番号表3昭和27年(1952)8.8×12.349専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)1昭和28年頃163.2×36.050総括店看板(京都コクヨ)1昭和30年頃91.0×17.651特約店看板2昭和時代58.8×160.0他52会社案内1昭和29年頃37.8×52.653配送用木箱1年代不明幅77.5×奥行39.4×高41.454洋式帳簿5昭和29年頃21.4×17.0他	45				75.5×145.5
47       大阪コクヨ商事株券       1       昭和27年(1952)発行       72.0×121.4         48       製品価格表と番号表       3       昭和27年(1952)       8.8×12.3         49       専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1       昭和28年頃       163.2×36.0         50       総括店看板(京都コクヨ)       1       昭和30年頃       91.0×17.6         51       特約店看板       2       昭和時代       58.8×160.0他         52       会社案内       1       昭和29年頃       37.8×52.6         53       配送用木箱       1       年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5       昭和29年頃       21.4×17.0他		<u> </u>			72.0×121.4
48       製品価格表と番号表       3       昭和27年(1952)       8.8×12.3         49       専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1       昭和28年頃       163.2×36.0         50       総括店看板(京都コクヨ)       1       昭和30年頃       91.0×17.6         51       特約店看板       2       昭和時代       58.8×160.0他         52       会社案内       1       昭和29年頃       37.8×52.6         53       配送用木箱       1       年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5       昭和29年頃       21.4×17.0他				11111	72.0×121.4
49       専門代理店看板(金沢コクヨ紙製品販売所)       1       昭和28年頃       163.2×36.0         50       総括店看板(京都コクヨ)       1       昭和30年頃       91.0×17.6         51       特約店看板       2       昭和時代       58.8×160.0他         52       会社案内       1       昭和29年頃       37.8×52.6         53       配送用木箱       1       年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5       昭和29年頃       21.4×17.0他	-	1 1111			
50       総括店看板(京都コクヨ)       1       昭和30年頃       91.0×17.6         51       特約店看板       2       昭和時代       58.8×160.0他         52       会社案内       1       昭和29年頃       37.8×52.6         53       配送用木箱       1       年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5       昭和29年頃       21.4×17.0他	-				
51       特約店看板       2       昭和時代       58.8×160.0他         52       会社案内       1       昭和29年頃       37.8×52.6         53       配送用木箱       1       年代不明       幅77.5×奥行39.4×高41.4         54       洋式帳簿       5       昭和29年頃       21.4×17.0他			_	11111	
52     会社案内     1     昭和29年頃     37.8×52.6       53     配送用木箱     1     年代不明     幅77.5×奥行39.4×高41.4       54     洋式帳簿     5     昭和29年頃     21.4×17.0他			_		
53     配送用木箱     1     年代不明     幅77.5×奥行39.4×高41.4       54     洋式帳簿     5     昭和29年頃     21.4×17.0他					
54 洋式帳簿 5 昭和29年頃 21.4×17.0他					
			_		
			_	11111	
	55	便戔	2	昭和30・31年頃	23.0×17.9他



- 黒田国光堂創業五十周年記念誌編輯委員『五十年のあゆみ』(株式会社黒田国光堂、一九五四)
- 中野皓次郎編『コクヨ専門店会 全国コクヨ専門店会結成一○周年記念誌』(コクヨ株式会社、一九六七)
- 野間義光 編『洋式帳簿製本の変遷と思い出』(日本経理帳簿株式会社、一九七六) コクヨ株式会社 、光をたたえて、編集委員会 『光をたたえて 故黒田会長 、想い出の記、集』 (コクヨ株式会社、一九六八)

コクヨ株式会社七○年史編集委員会『コクヨ\*七○年のあゆみ』(コクヨ株式会社、一九七五)

- 高原 稔 編『コクヨ総括店会 全国コクヨ総括店会結成二○周年記念誌』(コクヨ株式会社、一九七八)
- 黒田暲之助 『私の履歴書』(日本経済新聞社、一九八六)
- 笹間良彦『資料・日本歴史図録』 黒田暲之助『一事徹底』(コクヨ株式会社、一九八九)
- (柏書房株式会社、

一九九二)

笹間良彦『復元 江戸生活図鑑 (柏書房株式会社、一九九五)

コクヨビジネスサービス株式会 日本民具学会編『日本民具辞典』 (株式会社ぎょうせい、一九九七)

岩井宏實監修『[絵引] 民具の コクヨビジネスサービス株式会 (河出書 ニニク 株式会社、二 式会社、二〇

八

第三元 2 世 4 X 化 株 数 的

への思い 国帯の礎ミコクヨの現

secs10s29ex-12s13e

紙製品への思い

令和二年(二○二○)一○月

編集·発行/愛荘町立歴史文化博物館 シリーズ名/愛荘町歴史文化資料集 第31集 ●五二九—一二○二

☎○七四九 (三七) 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺八七八 四五〇〇

/近江印刷株式会社

印

一年度秋季特別展 の礎とコクヨの現在 質/本紙: テイクGA 100 菊判 76.5kg 材 /本文:モリサワ書体 リュウミン Pro 文 キャプション:モリサワ書体 ゴシック MB101Pro R ノンブル/小塚明朝 R イ ン ク/大日本インキ フュージョン G-ST